

## 男女共同参画に関する府民意識調査結果について

調査目的：新しい京都府男女共同参画計画策定の基礎資料とする。

調査期間：令和2年1月31日（金）～2月3日（月）

調査方法：インターネット調査

調査対象：京都府在住の20歳以上の男女2,000人（男女各1,000人、地域別・年齢別割付）

※参考のため、京都府「男女共同参画社会に関する府民意識調査」（前回調査）及び、内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和元年9月、報告書内「国」）と共通の設問の比較を行った。

※小数点第2位を四捨五入しているため、合計しても100とはならない場合がある。

### ●調査の概要

		今回調査	前回調査
調査時期		R2年1月	H21年12月
調査方法		インターネット	インターネット
対象者数		20歳以上2,000人	20歳以上2,000人
回答者数		2,000人	2,000人
男女構成	女性	50.5%	50.0%
年齢構成	20代	12.0%	27.0%
	30代	16.0%	27.0%
	40代	21.5%	27.0%
	50代	19.7%	14.2%
	60代	18.6%	4.9%
	70歳以上	12.2%	—

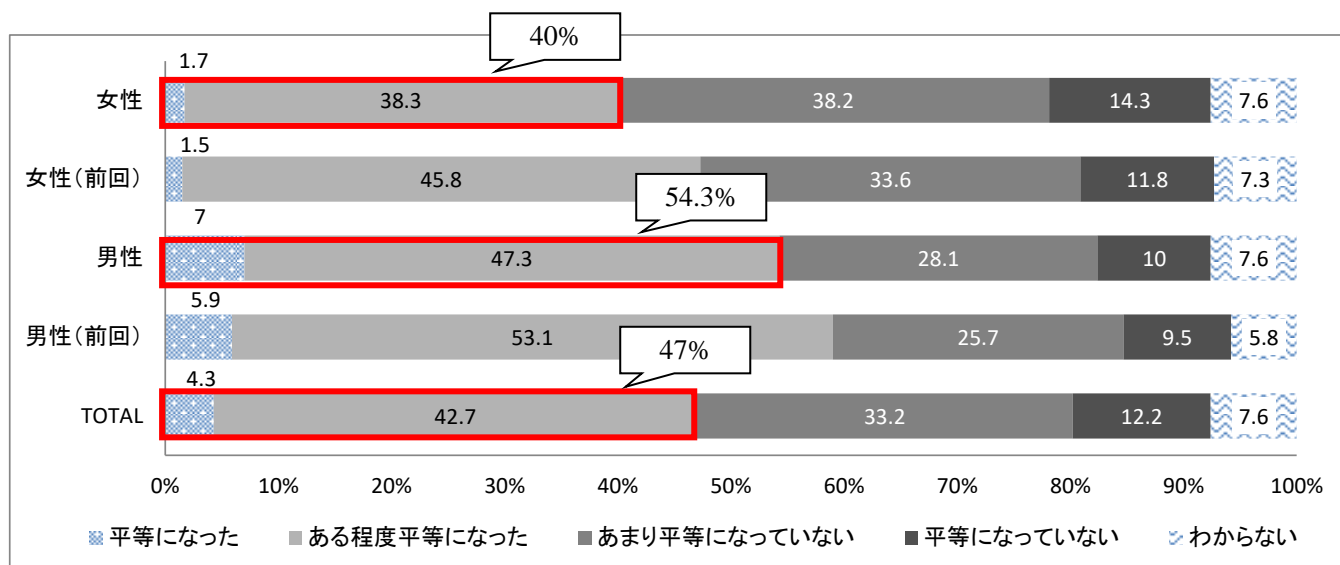
地域別構成	今回調査	人口構成比 (令和2年1月1日現在)	前回調査 (参考)
京都市	56.7%	56.8%	60.2%
山城地域	27.2%	27.3%	27.6%
南丹地域	5.2%	5.1%	3.7%
中丹地域	7.3%	7.3%	5.8%
丹後地域	3.6%	3.5%	2.8%

就業状況別構成	女性	男性	全体
正社員・正職員	21.9%	45.6%	33.6%
非正規社員・非正規職員 (パート、アルバイト、派遣社員等)	31.4%	12.2%	21.9%
その他の勤め人	0.3%	0.7%	0.5%
自営業、自由業	4.3%	14.1%	9.1%
その他の職業	1.3%	1.2%	1.3%
学生	3.0%	3.6%	3.3%
家事専業、家族従業者	27.9%	0.7%	14.5%
無職	9.9%	22.0%	15.9%

## 【Q1 社会全体の男女平等の達成度】

社会全体が男女平等になったと回答しているのは約半数。女性が40%、男性は54.3%。  
女性は30代、40代が低い。地域別に見ても大きな差はない。

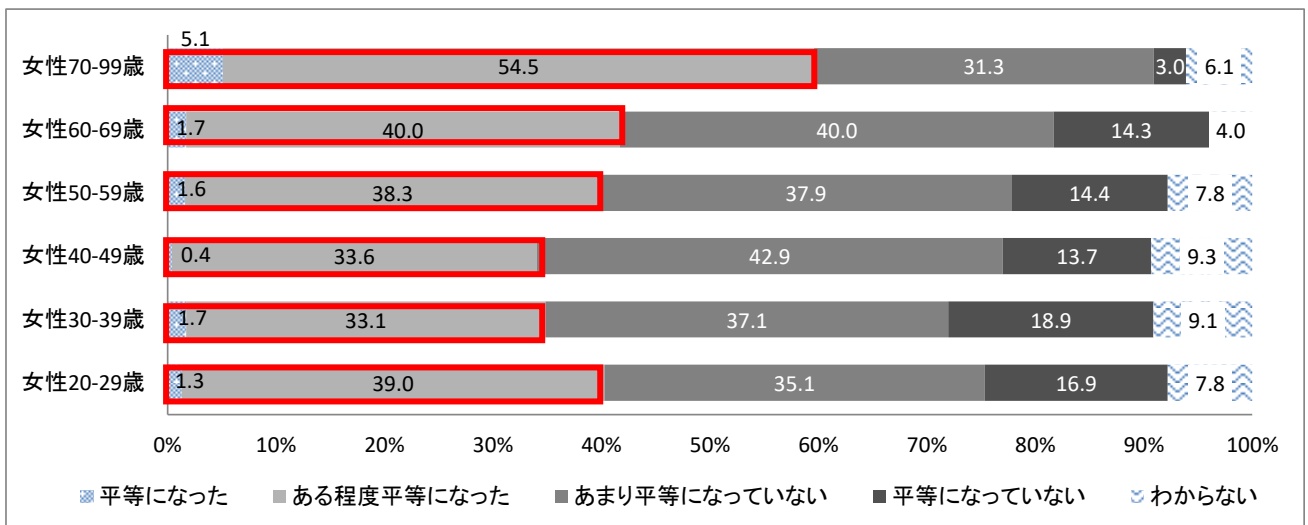
前回と比較すると、男女とも平等感が低下しており、性別・年代別では、10ポイント以上低下しているのは女性の40代、50代、60代、男性の20代、30代、60代。



### ● 「平等になった（平等になった、ある程度平等になった、の合計）」

	女性	男性	全体
今回	40.0% (-7.3)	54.3% (-4.7)	47.0% (-6.2)
前回	47.3%	59.0%	53.2%

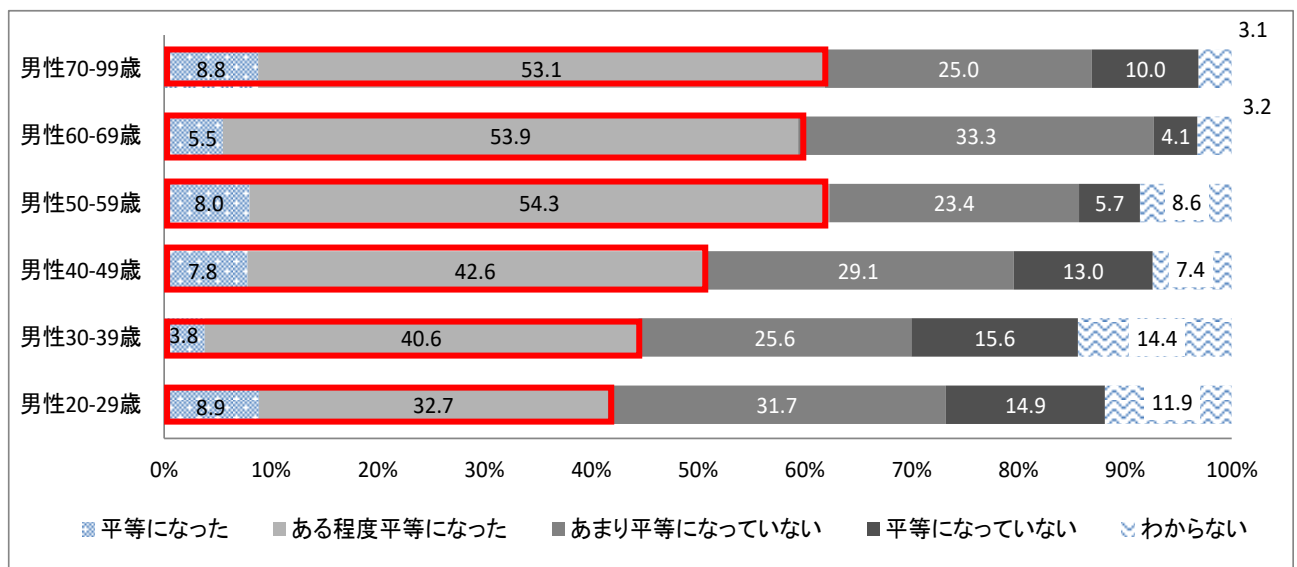
●女性 年代別



女性 年代別「平等になった（平等になった、ある程度平等になった、の合計）」

	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
今回	40.3% (-8.2)	34.8% (-4.0)	34.0% (-15.6)	39.9% (-12.9)	41.7% (-16.7)	59.6%
前回	48.5%	38.8%	49.6%	52.8%	58.4%	

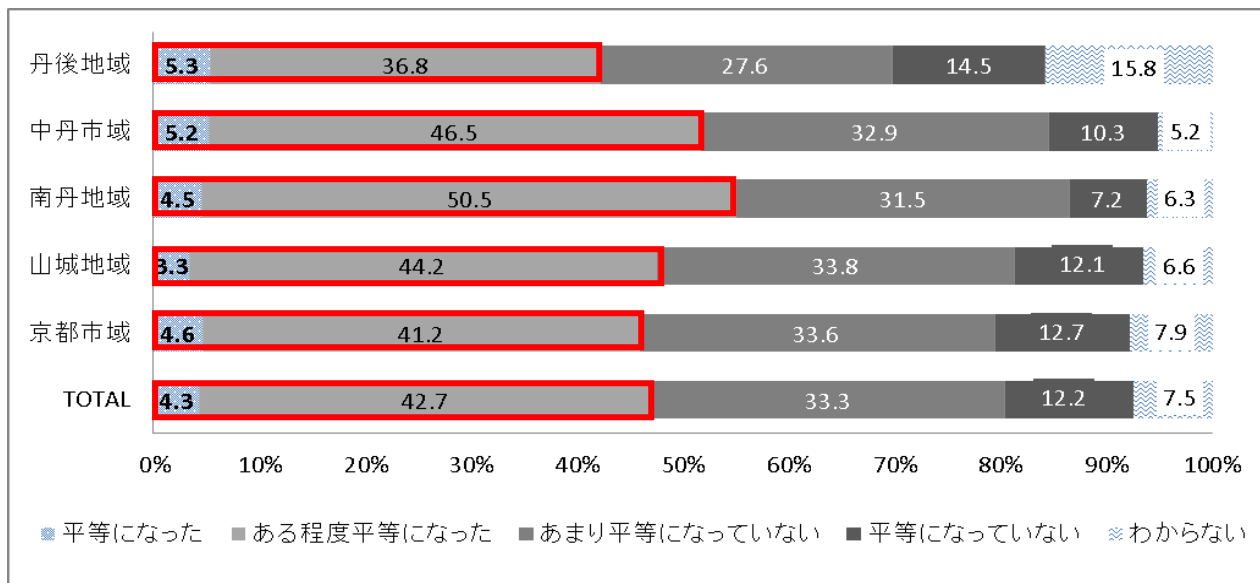
●男性 年代別



男性 年代別「平等になった（平等になった、ある程度平等になった、の合計）」

	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
今回	41.6% (-10.9)	44.4% (-13.6)	50.4% (-8.9)	62.3% (-2.2)	59.4% (-12.0)	61.9%
前回	52.5%	58.0%	59.3%	64.5%	71.4%	

●地域別「平等になった（平等になった、ある程度平等になった、の合計）」



	京都市	山城	南丹	中丹	丹後
今回	45.8% (-8.2)	47.5% (-2.7)	55.0% (-4.3)	51.7% (-5.2)	42.1% (-18.6)
前回	54.0%	50.2%	50.7%	56.9%	60.7%

## 【Q2 分野別の男女の地位の平等】

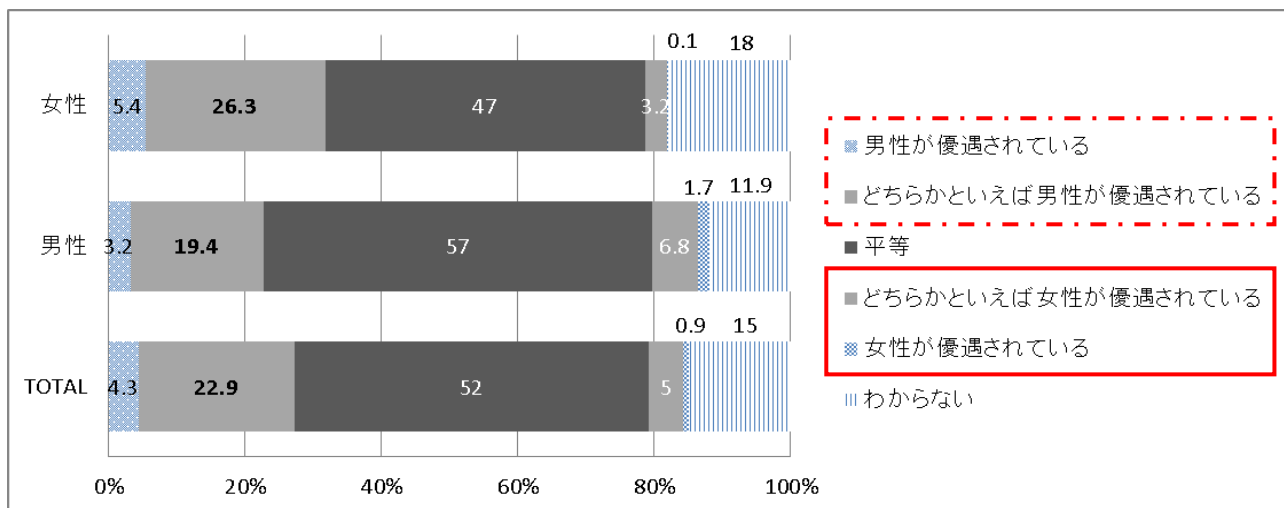
「学校教育」が、比較的平等との回答が多いが、前回と比較すると女性 26.2%、男性 18.6%減少しており、「男性優遇」が上昇している。

「職場」「家庭生活」「政治や行政の政策・方針決定の場」「社会通念、慣習、しきたり」は、男女とも「男性優遇」が高い。

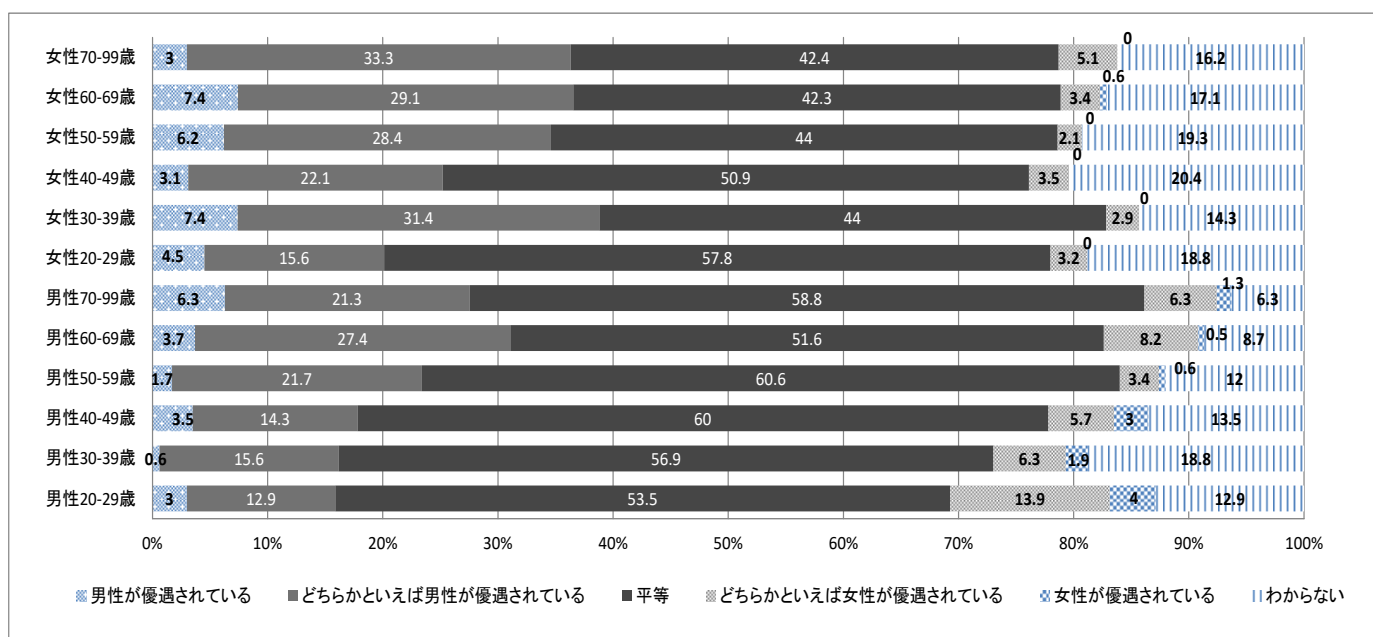
「町内会・自治会や地域」「法律・制度」は、女性は「男性優遇」、男性は「平等」と考えている。

※「男性優遇（男性が優遇されている、どちらかといえば男性が優遇されている、の合計）」、「女性優遇（女性が優遇されている、どちらかといえば女性が優遇されている、の合計）」

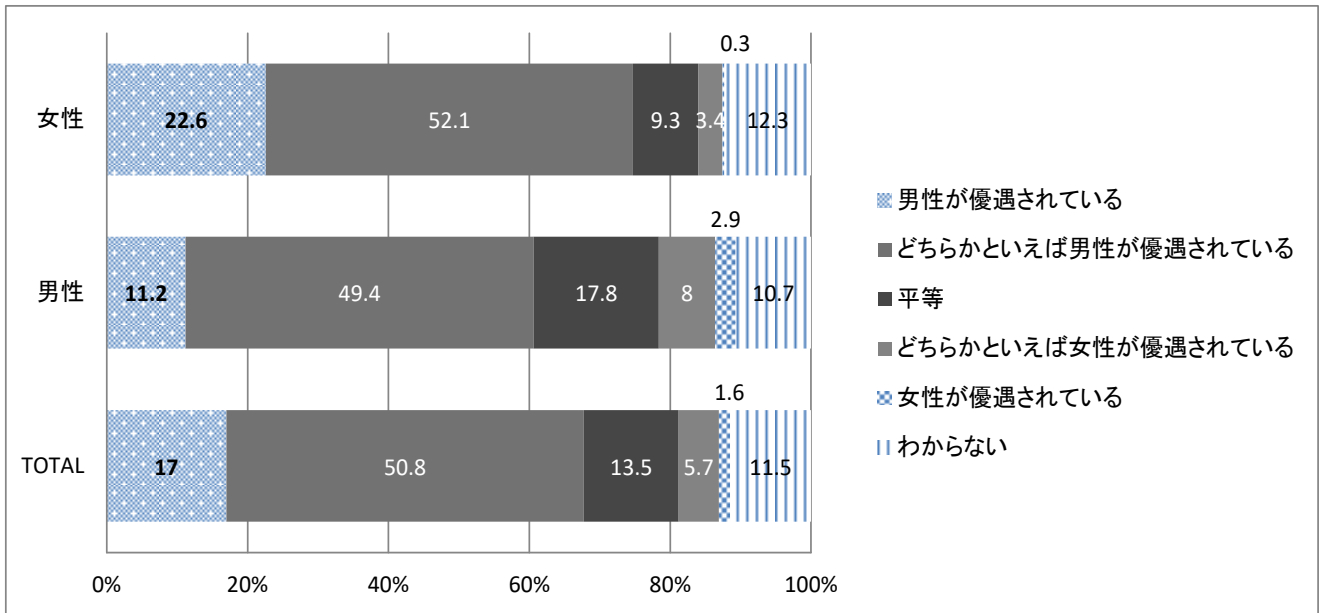
### Q2-1 学校教育



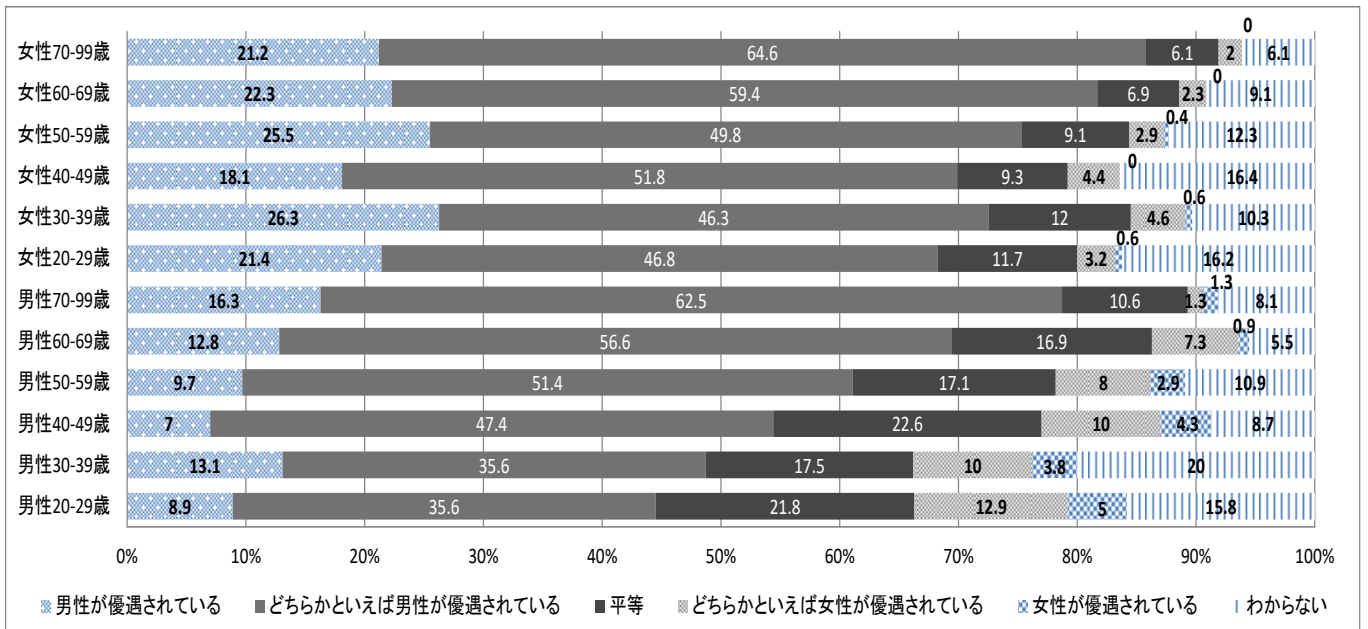
	女性			男性		
	男性優遇	平等	女性優遇	男性優遇	平等	女性優遇
今回	31.7%	47.0%	3.3%	22.6%	57.0%	8.5%
(対前)	(+16.8)	(-26.2)	(+0.5)	(+14.4)	(-18.6)	(+0.3)
前回	14.9%	73.2%	2.8%	8.2%	75.6%	8.2%



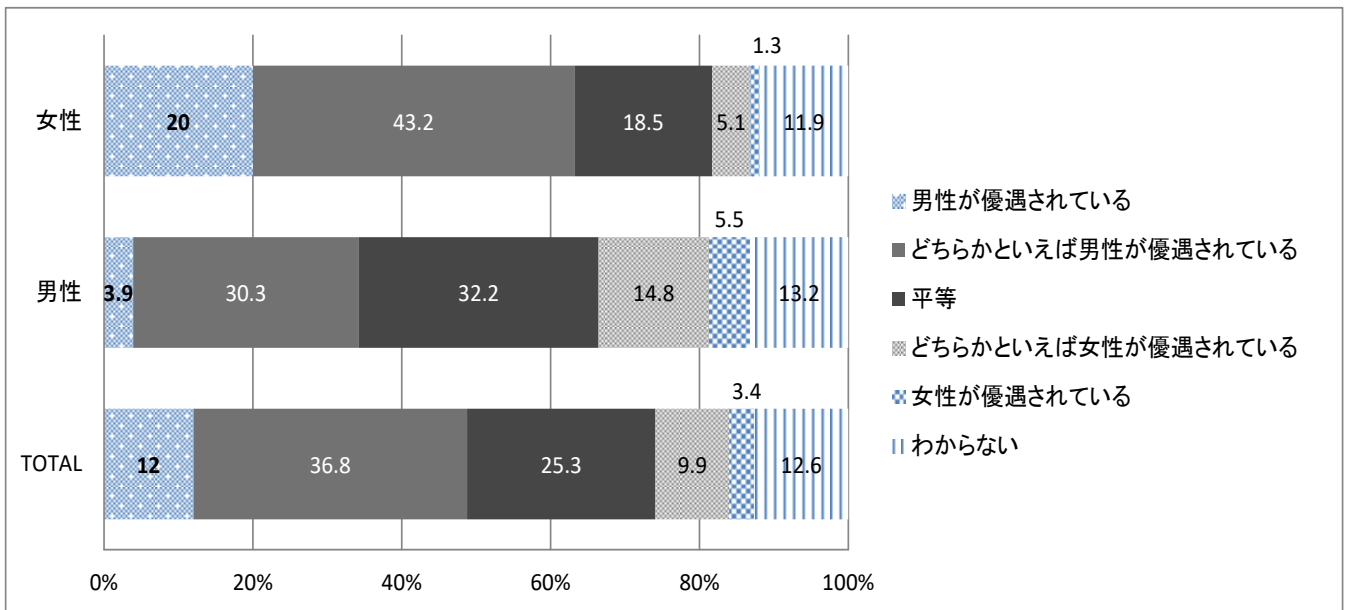
Q2-2 職場



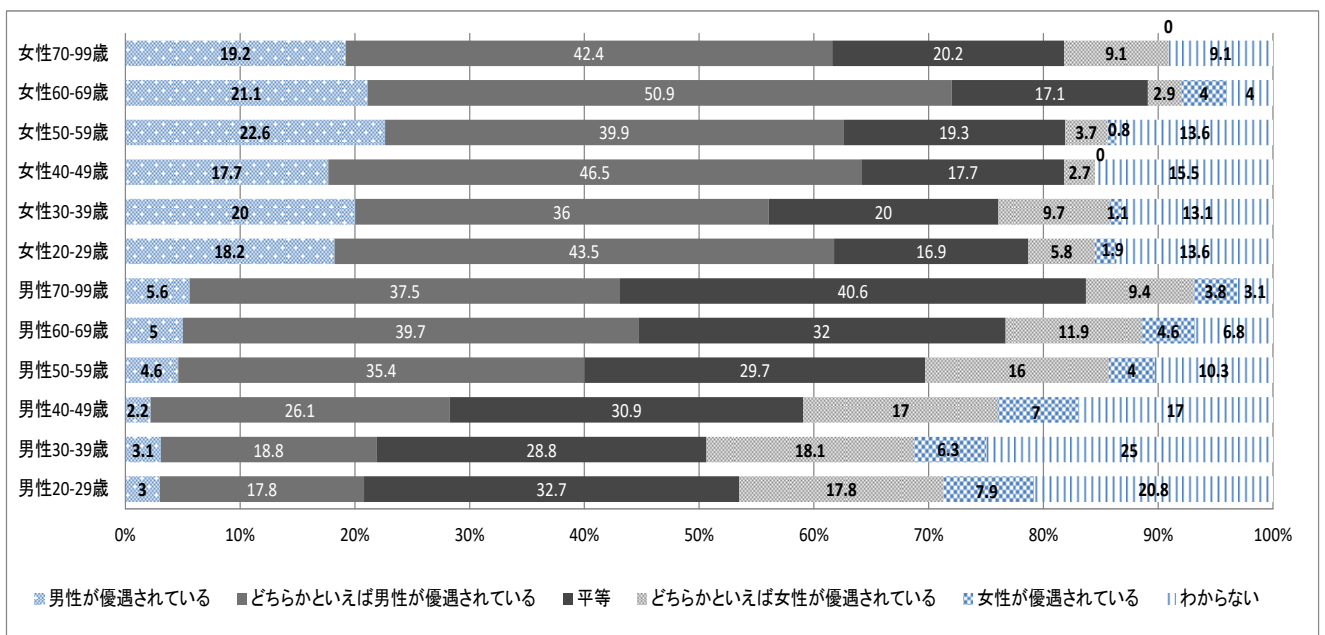
	女性			男性		
	男性優遇	平等	女性優遇	男性優遇	平等	女性優遇
今回	74.7%	9.3%	3.7%	60.6%	17.8%	10.9%
(対前)	(-9.0)	(+1.8)	(+1.1)	(-5.5)	(+3.7)	(-1.5)
(対国)	(+20.6)	(-19.1)	(-1.0)	(7.8)	(-15.5)	(+5.6)
前回	83.7%	7.5%	2.6%	66.1%	14.1%	12.4%
国	54.1%	28.4%	4.7%	52.8%	33.3%	5.3%



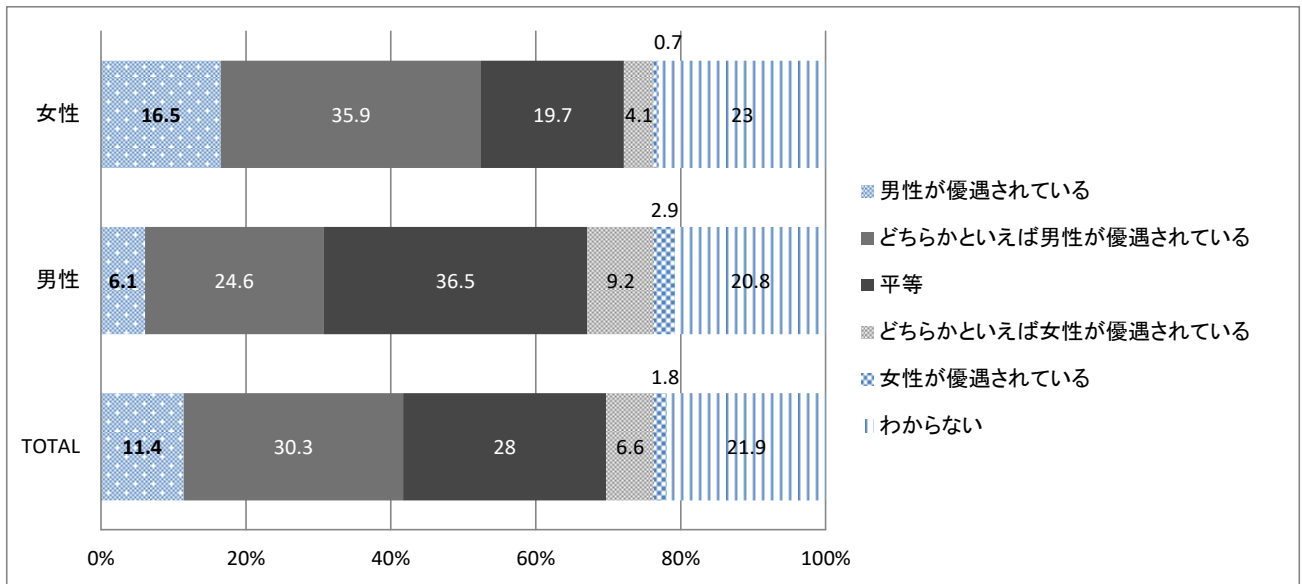
### Q2-3 家庭生活



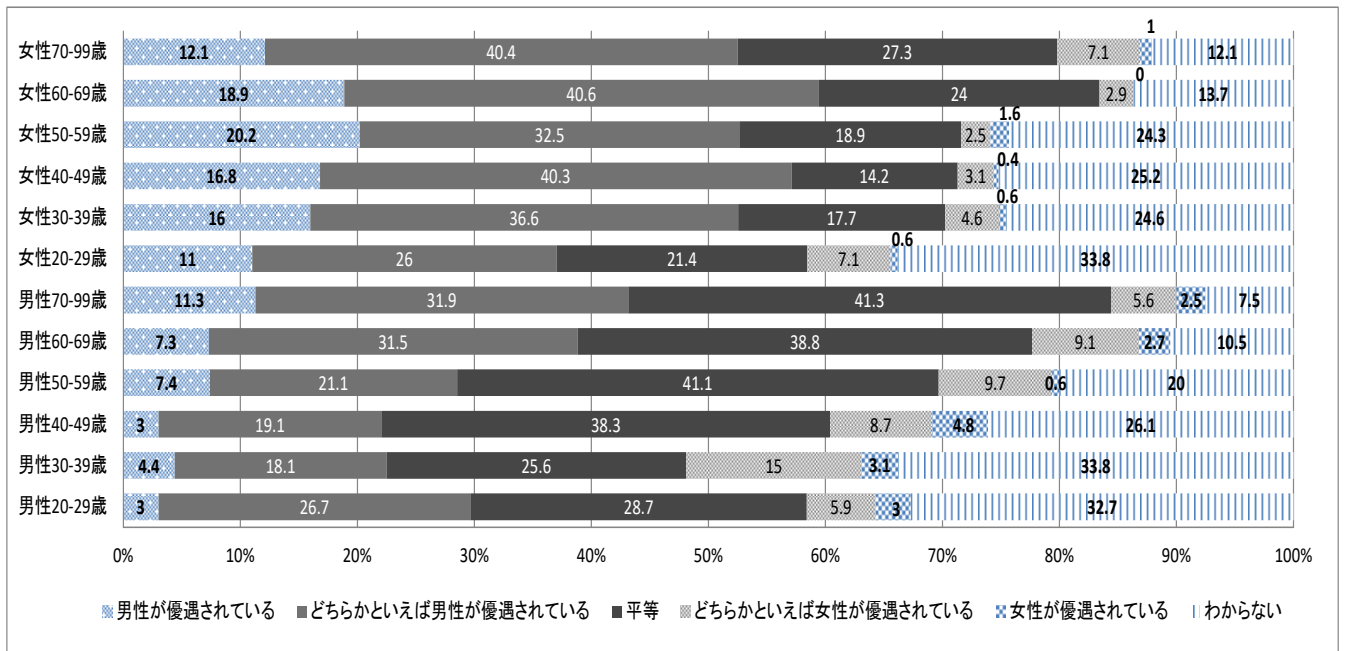
	女性			男性		
	男性優遇	平等	女性優遇	男性優遇	平等	女性優遇
今回	63.2%	18.5%	6.4%	34.2%	32.2%	20.3%
(対前)	(+4.8)	(-2.2)	(-6.4)	(+3.3)	(+0.1)	(-9.6)
(対国)	(+11.6)	(-20.6)	(-0.1)	(-3.1)	(-20.5)	(12.3)
前回	58.4%	20.7%	12.8%	30.9%	32.1%	29.9%
国	51.6%	39.1%	6.5%	37.3%	52.7%	8.0%



Q2-4 町内会・自治会や地域

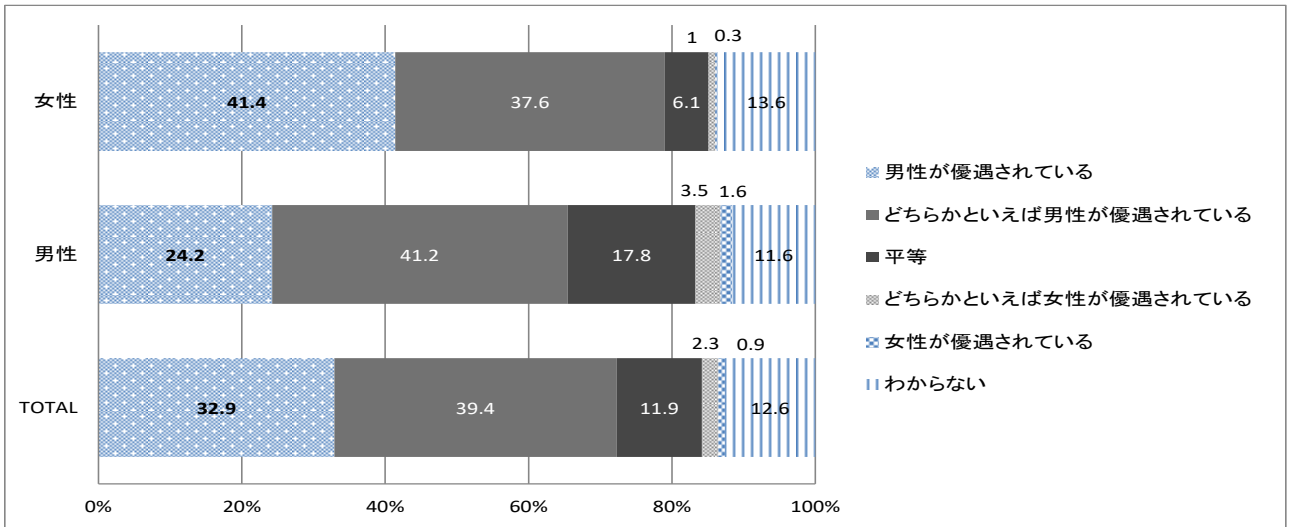


	女性			男性		
	男性優遇	平等	女性優遇	男性優遇	平等	女性優遇
今回	52.4%	19.7%	4.8%	30.7%	36.5%	12.1%
(対前)	(+4.4)	(-6.8)	(-4.4)	(+4.5)	(-4.3)	(-8.1)
(対国)	(+14.4)	(-26.0%)	(-3.3)	(-0.1)	(-7.9)	(-0.5)
前回	48.0%	26.5%	9.2%	26.2%	40.8%	20.2%
国	38.0%	45.7%	8.1%	30.8%	47.4%	12.6%

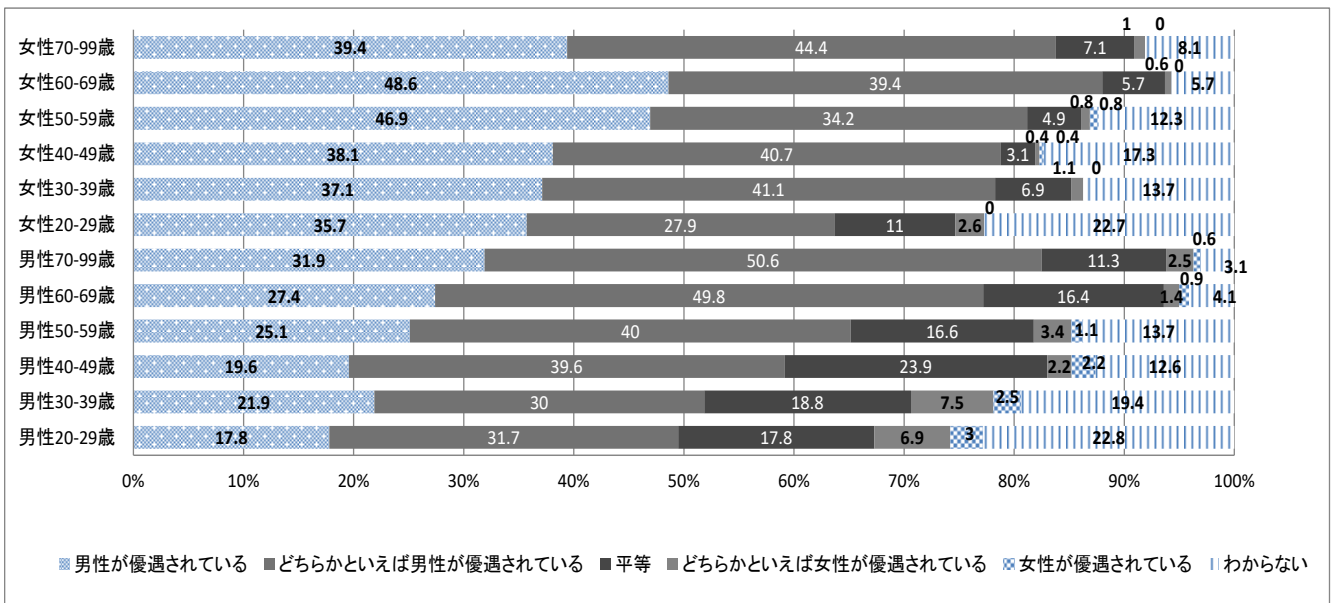




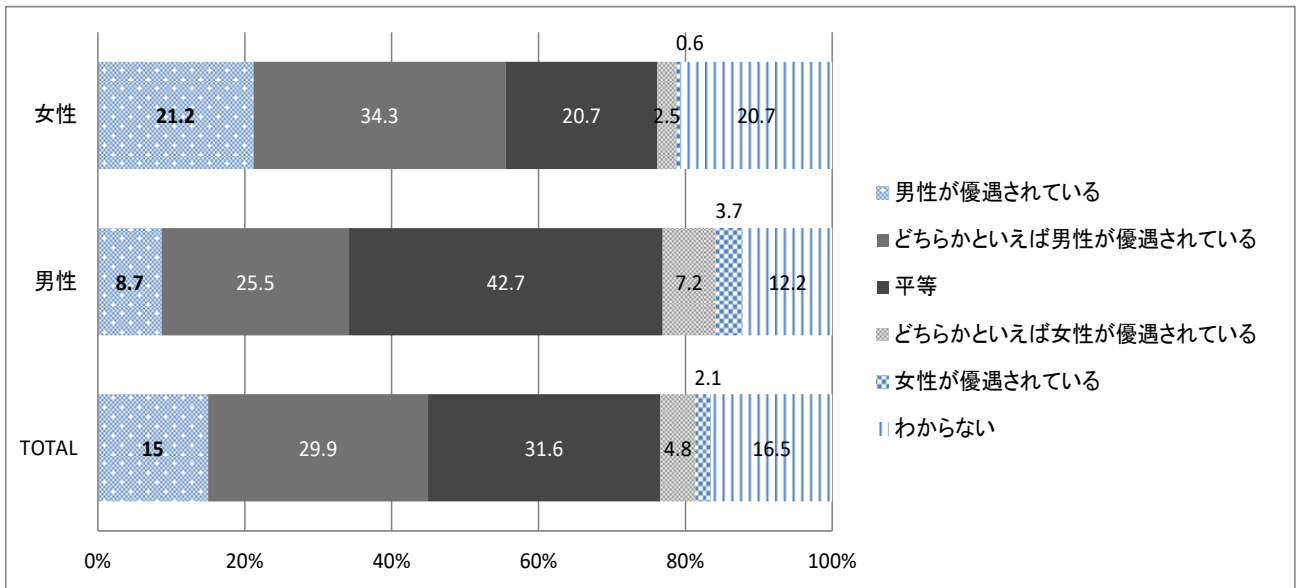
Q 2 - 5 政治や行政の政策・方針決定の場



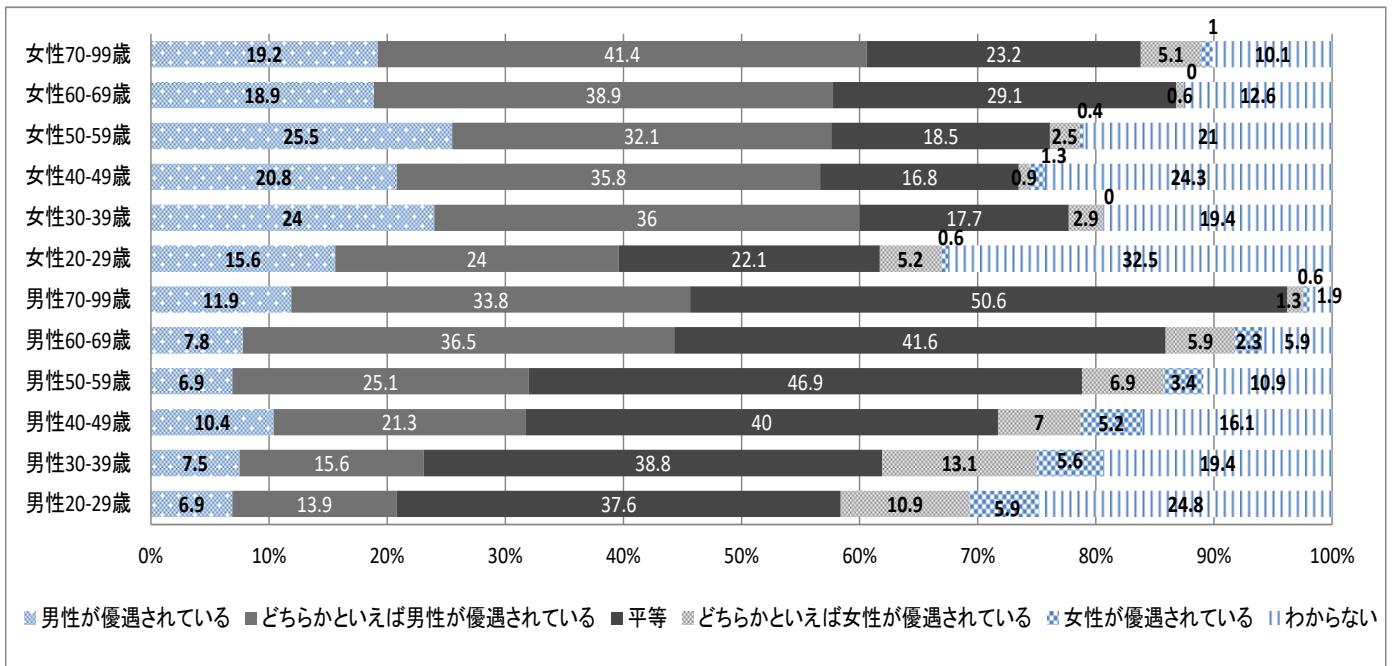
	女性			男性		
	男性優遇	平等	女性優遇	男性優遇	平等	女性優遇
今回	79.0%	6.1%	1.3%	65.4%	17.8%	5.1%
(対前)	(+0.3)	(-6.2)	(±0)	(+8.0)	(-9.8)	(-3.3)
(対国)	(+3.4)	(-4.9)	(+0.4)	(-9.8)	(-0.5)	(+3.5)
前回	78.7%	12.3%	1.3%	57.4%	27.6%	8.4%
国	82.4%	11.0%	0.9%	75.2%	18.3%	1.6%



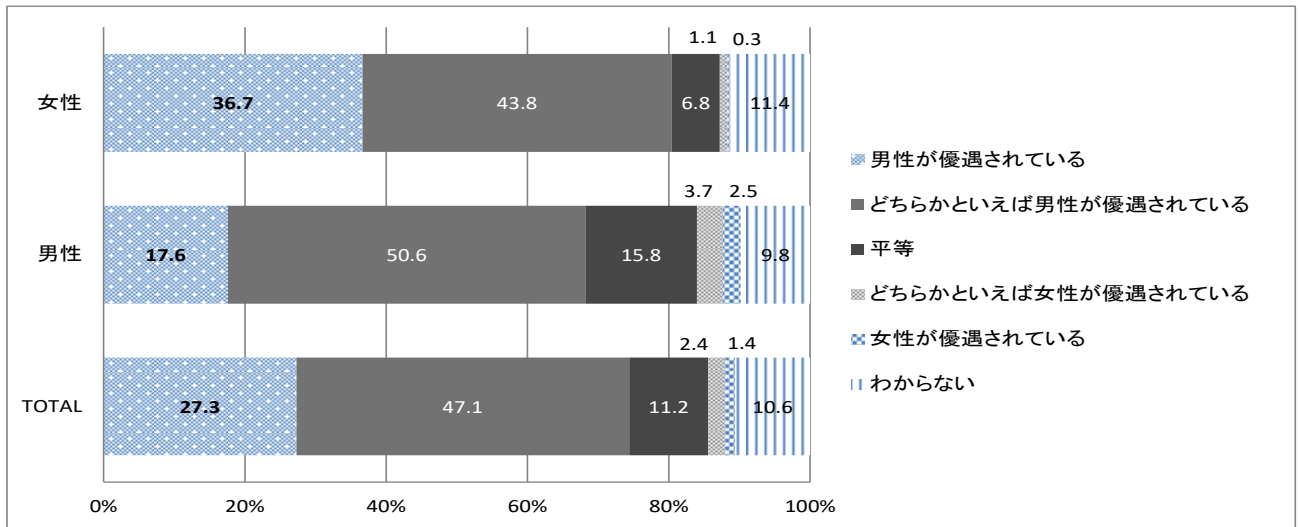
Q2-6 法律・制度



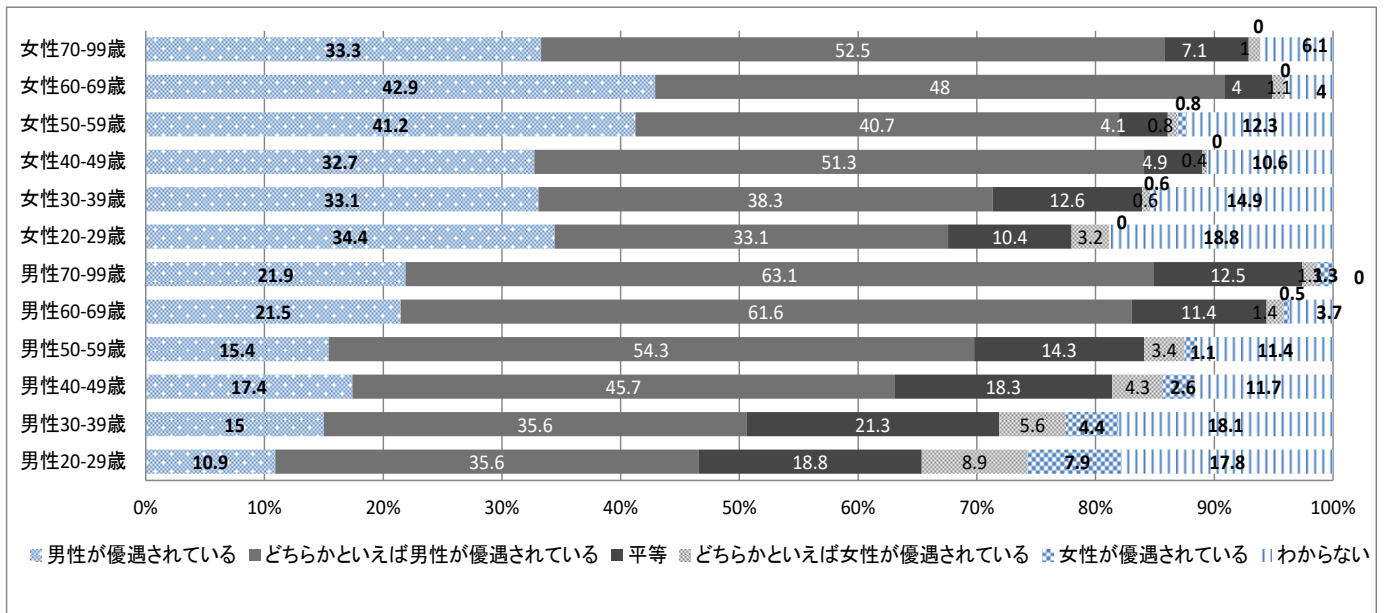
	女性			男性		
	男性優遇	平等	女性優遇	男性優遇	平等	女性優遇
今回	55.5%	20.7%	3.1%	34.2%	42.7%	10.9%
(対前)	(-1.5)	(-6.7)	(-2.3)	(+2.4)	(+2.2)	(-8.3)
(対国)	(+3.4)	(-12.6)	(-0.2)	(+6.8)	(-4.1)	(-5.2)
前回	57.0%	27.4%	5.4%	31.8%	40.5%	19.2%
国	52.1%	33.3%	3.3%	41.0%	46.8%	5.7%



Q2-7 社会通念、慣習、しきたり



	女性			男性		
	男性優遇	平等	女性優遇	男性優遇	平等	女性優遇
今回	80.5%	6.8%	1.4%	68.2%	15.8%	6.2%
(対前)	(-4.0)	(-1.7)	(+0.2)	(+0.9)	(-1.5)	(-2.1)
(対国)	(+9.0)	(-13.7)	(0.6)	(-0.3)	(-9.2)	(3.6)
前回	84.5%	8.5%	1.2%	67.3%	17.3%	8.3%
国	71.5%	20.5%	2.0%	68.5%	25.0%	2.6%



### 【Q3 男女の役割や生活に関する意識】

「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」（Q3-1）は、男女とも反対が過半数を超え、前回及び国より高くなっている。

次の4項目は男女とも反対が多く、固定的役割分担意識にとらわれない人が多くなっていることがうかがえる。

「女性が仕事を持つのはよいが、家事・育児も女性がすべきである」（Q3-2）

「子育ては主に母親の役割である」（Q3-3）

「親の介護は、息子よりも娘か息子の嫁がする方がよい」（Q3-5）

「自分の娘や身近な女性が科学者や技師、医師などの職業を目指すことには抵抗感がある」（Q3-7）

「自治会長などの地域の役員のトップには男性になる方がよい」（Q3-8）

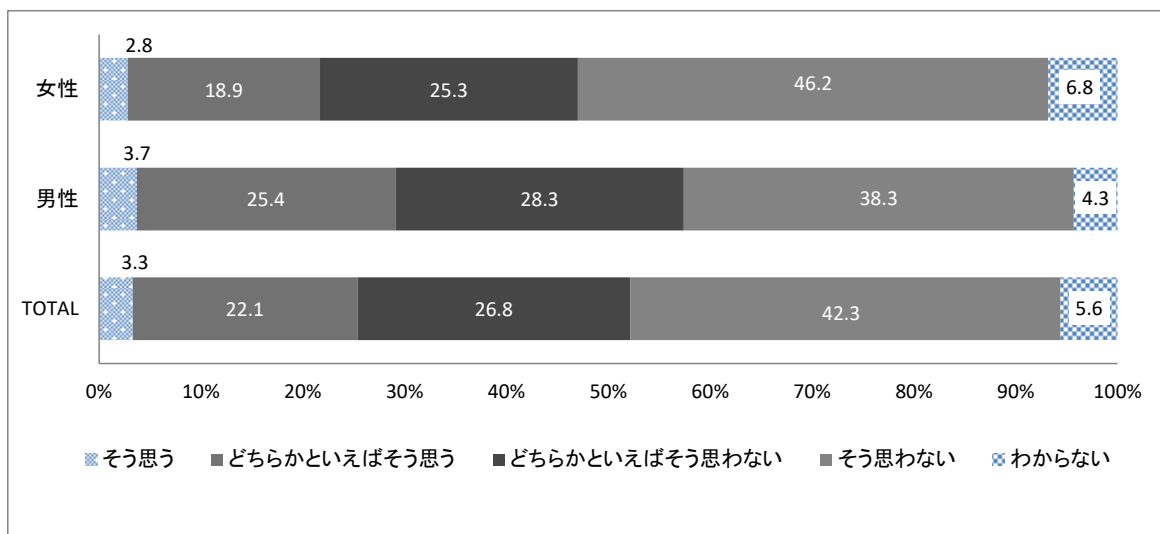
「男性も主体的に家事や子育て、介護、地域活動へ参加するべきである」（Q3-4）は、80%が賛成

「生活に困らないだけの収入があれば、それ以上の収入や昇進よりも私生活の充実を重視したい」（Q3-6）は、73%が賛成。

※「賛成（そう思う、どちらかといえばそう思う、の合計）」、

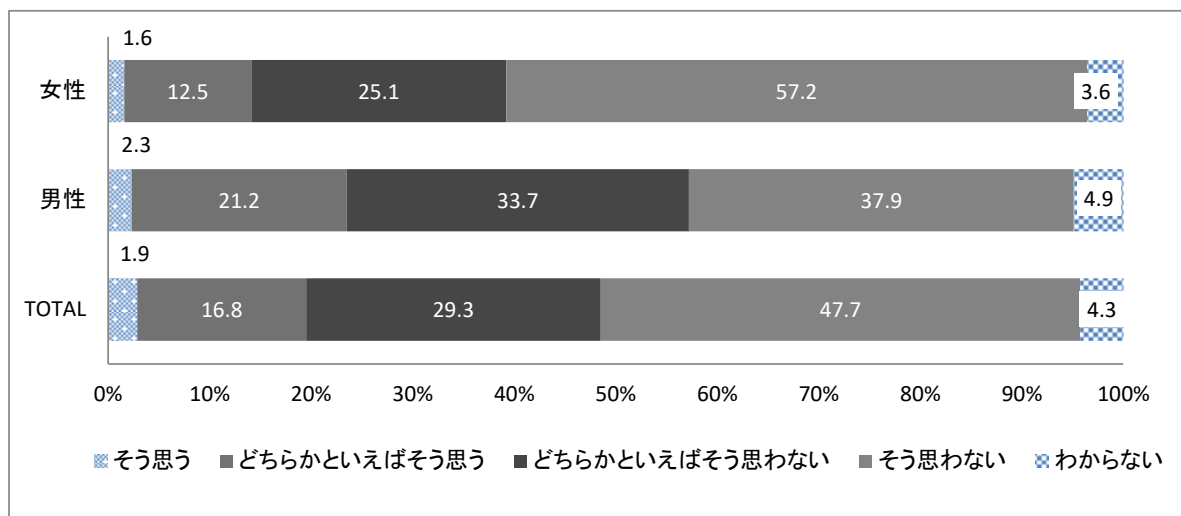
「反対（どちらかといえばそう思わない、そう思わない、の合計）」

#### Q3-1 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである



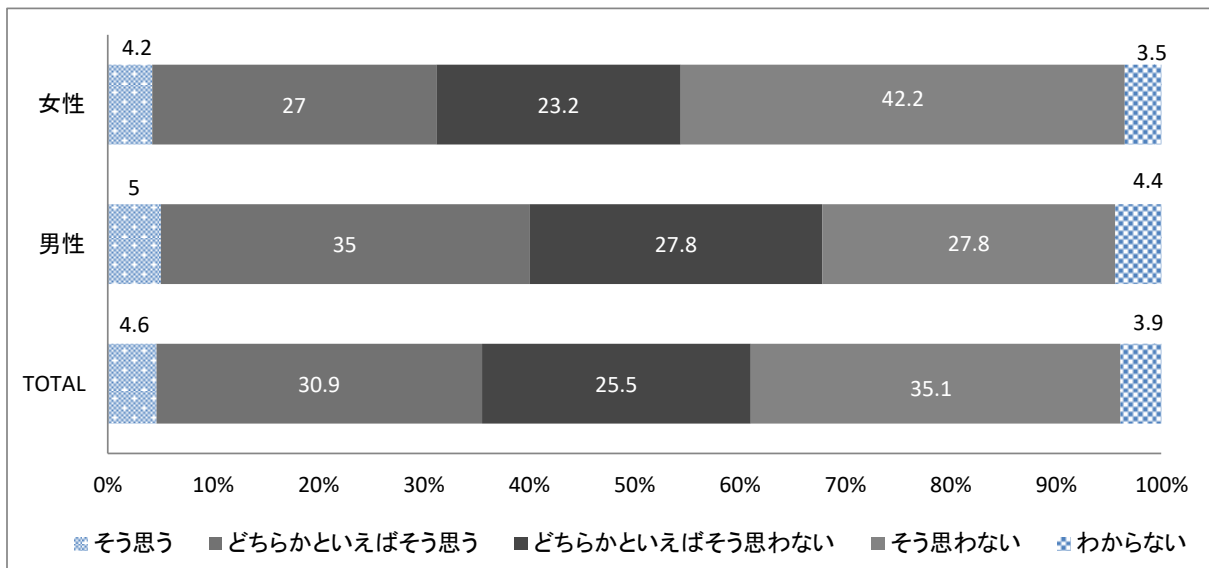
	女性		男性		全体	
	賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対
今回	21.7%	71.5%	29.1%	66.6%	25.4%	69.1%
(対前)	(-7.8)	(+5.2)	(-9.3)	(+10.4)	(-8.6)	(+7.8)
(対国)	(-9.4)	(+8.1)	(-10.3)	(+10.9)	(-9.6)	(+9.3)
前回	29.5%	66.3%	38.4%	56.2%	34.0%	61.3%
国	31.1%	63.4%	39.4%	55.7%	35.0%	59.8%

Q3-2 女性が仕事を持つのはよいが、家事・育児も女性がすべきである



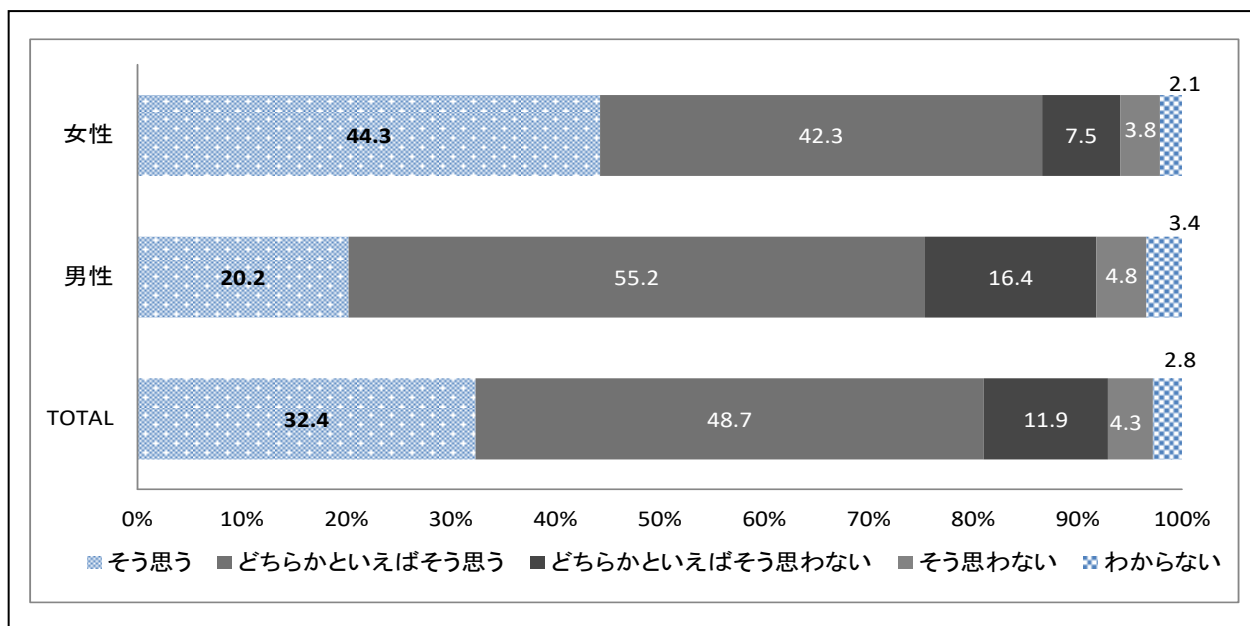
	女性		男性		全体	
	賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対
今回	14.1% (-5.5)	82.3% (+5.3)	23.5% (-10.4)	71.6% (+9.5)	18.7% (-8.1)	77.0% (+7.4)
前回	19.6%	77.0%	33.9%	62.1%	26.8%	69.6%

Q3-3 子育ては主に母親の役割である



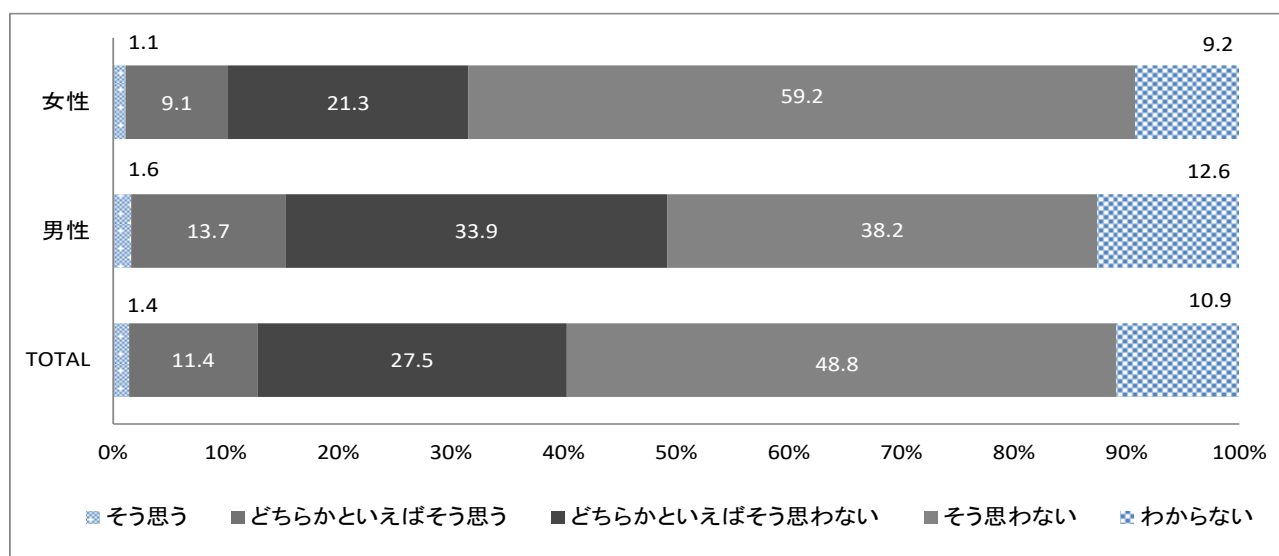
	女性		男性		全体	
	賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対
今回	31.2% (-4.8)	65.4% (+3.5)	40.0% (-5.3)	55.6% (+4.0)	35.5% (-5.2)	60.6% (+3.8)
前回	36.0%	61.9%	45.3%	51.6%	40.7%	56.8%

Q3-4 男性も主体的に家事や子育て、介護、地域活動へ参加するべきである



	女性		男性		全体	
	賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対
今回	86.6%	11.3%	75.4%	21.2%	81.1%	16.2%

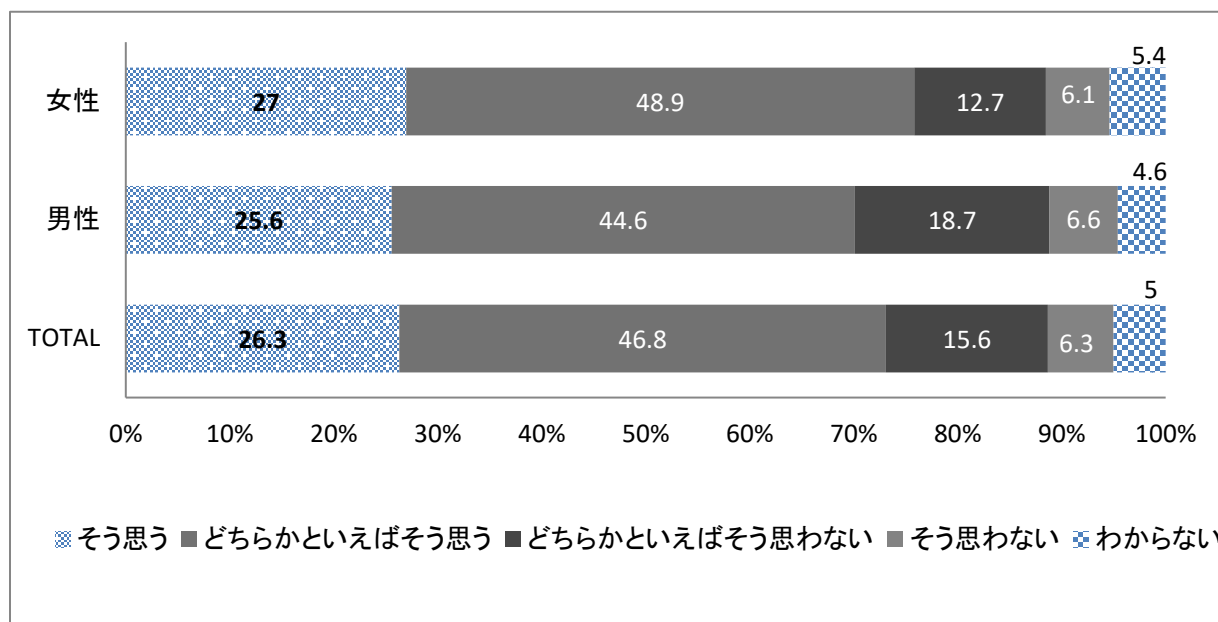
Q3-5 親の介護は、息子よりも娘か息子の嫁がする方がよい



	女性		男性		全体	
	賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対
今回	10.2% (+0.8)	80.5% (+2.0)	15.3% (+0.5)	72.1% (-0.1)	12.8% (+0.6)	76.3% (+0.9)
前回	9.4%	78.5%	14.8%	72.2%	12.2%	75.4%

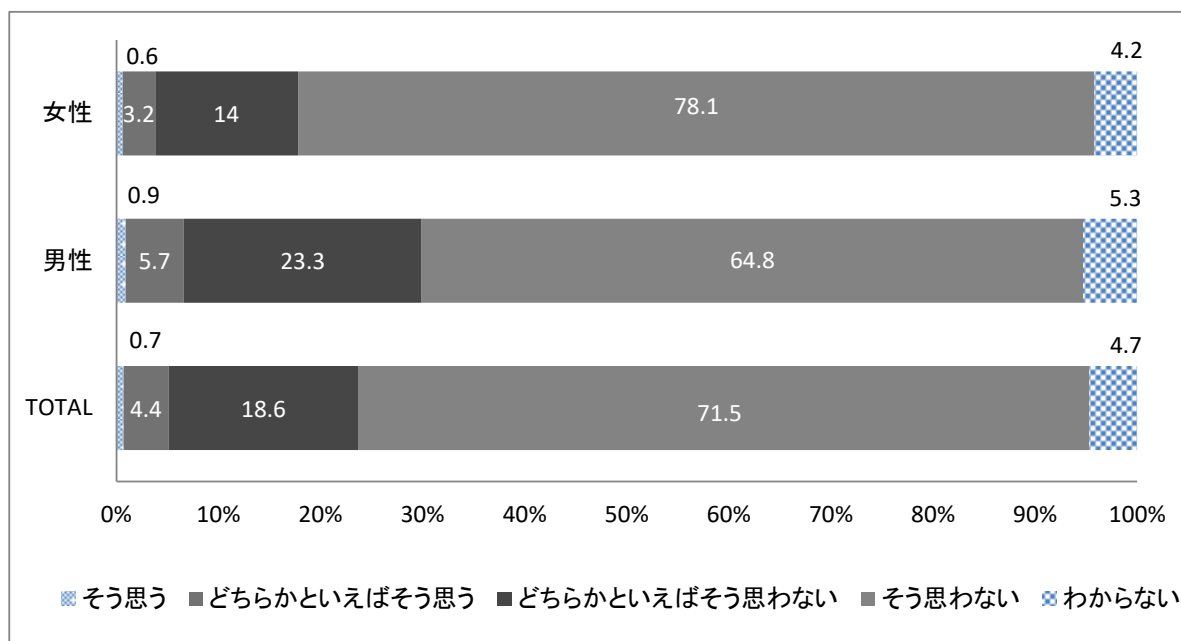


Q3-6 生活に困らないだけの収入があれば、それ以上の収入や昇進よりも私生活の充実を重視したい



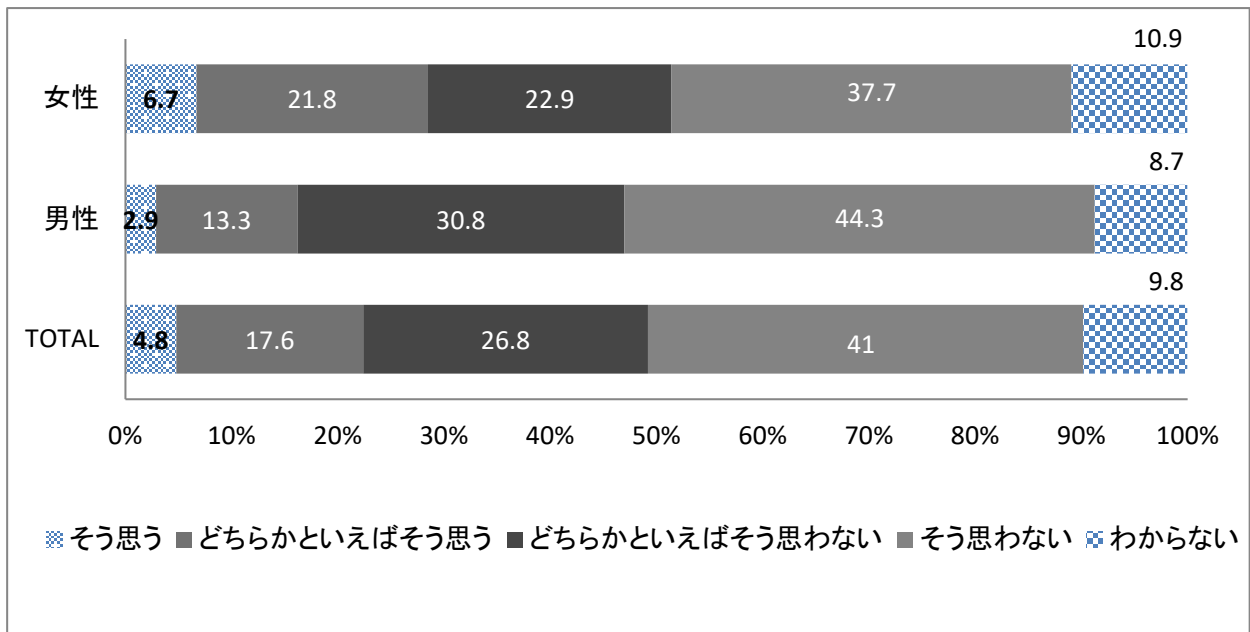
	女性		男性		全体	
	賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対
今回	75.9%	18.8%	70.2%	25.3%	73.1%	21.9%
	(-1.0)	(+1.1)	(-3.7)	(4.3)	(-2.3)	(+2.5)
前回	76.9%	17.7%	73.9%	21.0%	75.4%	19.4%

Q 3-7 自分の娘や身近な女性が科学者や技師、医師などの職業を目指すことには抵抗感がある



	女性		男性		全体	
	賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対
今回	3.8% (+0.7)	92.1% (+2.2)	6.6% (-0.5)	88.1% (0.7)	5.1% (-0.1)	90.1% (+1.4)
前回	3.1%	89.9%	7.1%	87.4%	5.2%	88.7%

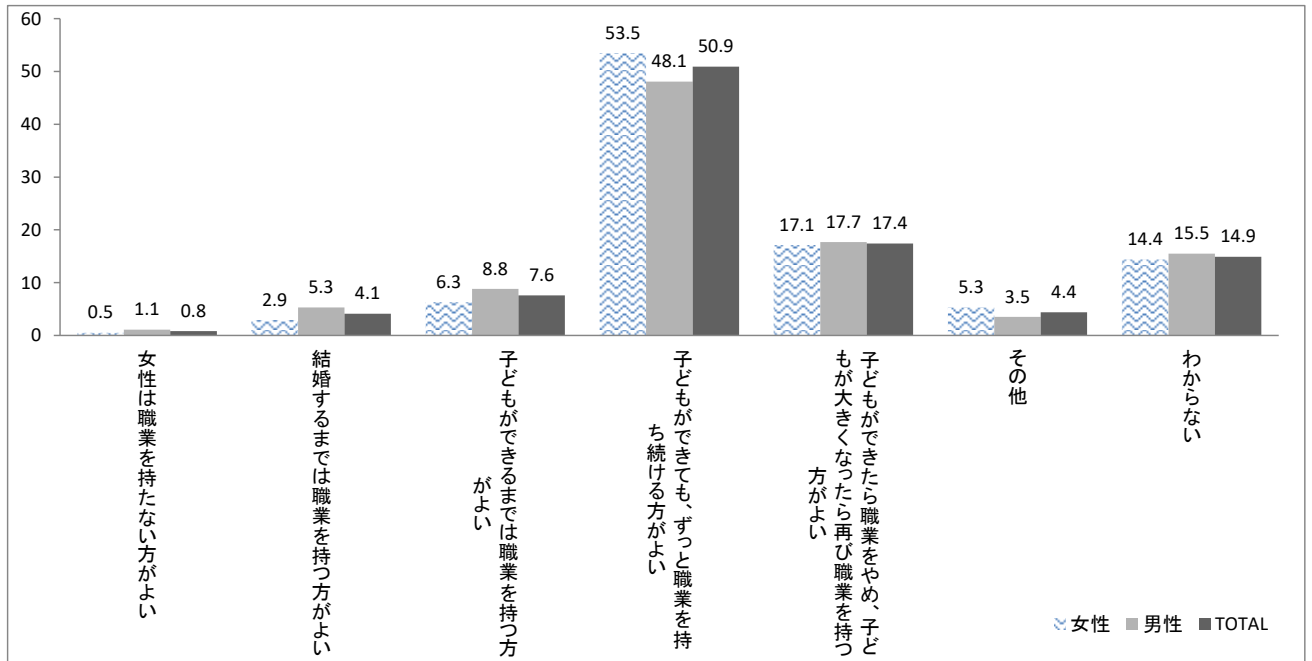
Q3-8 自治会長などの地域の役員のトップには男性になる方がよい



	女性		男性		全体	
	賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対
今回	28.5%	60.6%	16.2%	75.1%	22.4%	67.8%
	(-0.5)	(+0.9)	(-3.5)	(4.1)	(-2.0)	(+2.4)
前回	29.0%	59.7%	19.7%	71.0%	24.4%	65.4%

#### 【Q4 一般的に、女性の職業についての考え】

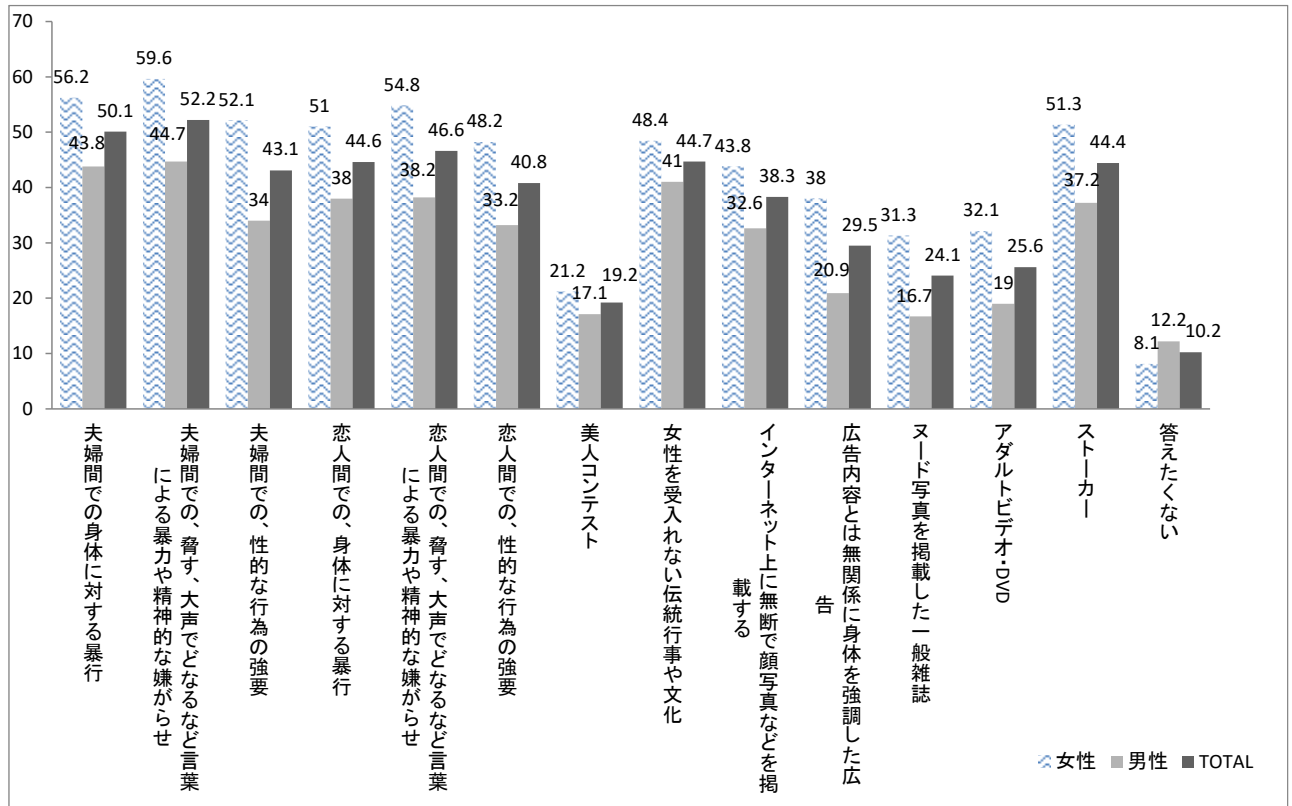
前回の調査で最も多い回答が、「子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」から「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」へ逆転したが、今回の調査でも「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」が増えており、女性もずっと職業を持ち続ける方がよいという考えが定着している。



	今回			前回		
	女性	男性	全体	女性	男性	全体
子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい	53.5% (+10.5)	48.1% (+8.5)	50.9% (+9.6)	43.0%	39.6%	41.3%
子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい	17.1% (-9.7)	17.7% (-10.2)	17.4% (-10.0)	26.8%	27.9%	27.4%

【Q5 女性（男性）の人権が尊重されていないこと】

夫婦間の暴力（身体的暴力、精神的暴力、性的行為の強要）は、女性は5～6割、男性は3～4割。恋人間の暴力は、配偶者間の暴力とほぼ同傾向でやや低い値を示す。



●男女いずれかの50%以上が人権が尊重されていないと回答したもの

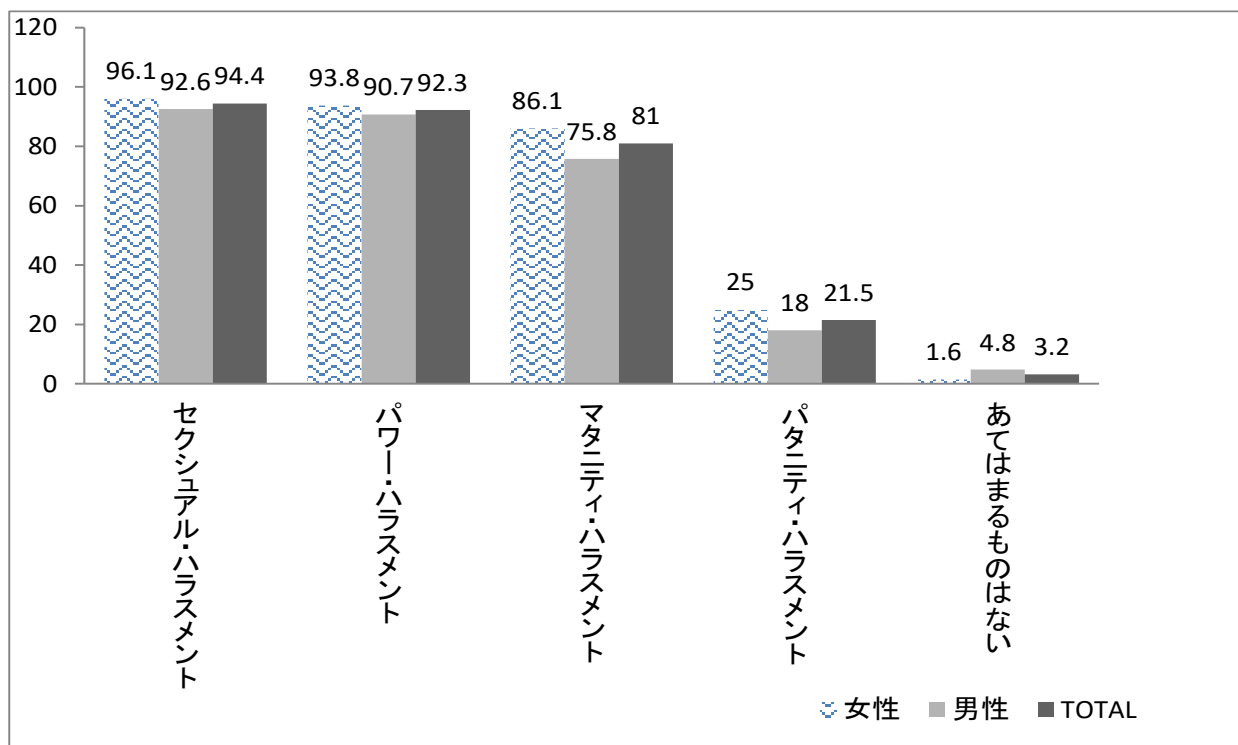
	今回		前回	
	女性	男性	女性	男性
夫婦間での、言葉による暴力や精神的な嫌がらせ	59.6% (+3.7)	44.7% (+5.7)	55.9%	39.0%
夫婦間での、身体に対する暴行	56.2% (-2.8)	43.8% (-1.2)	59.0%	45.0%
恋人間での、言葉による暴力や精神的な嫌がらせ	54.8% (+2.1)	38.2% (0.7)	52.7%	37.5%
夫婦間での、性的な行為の強要	52.1% (-2.3)	34.0% (-0.3)	54.4%	33.7%
ストーカー	51.3% (-7.4)	37.2% (-8.7)	58.7%	45.9%
恋人間での、身体に対する暴行	51.0% (-3.0)	38.0% (-2.6)	54.0%	40.6%
恋人間での、性的な行為の強要	48.2% (-4.0)	33.2% (-0.9)	52.2%	34.1%

## 【Q6 ハラスメントについて】

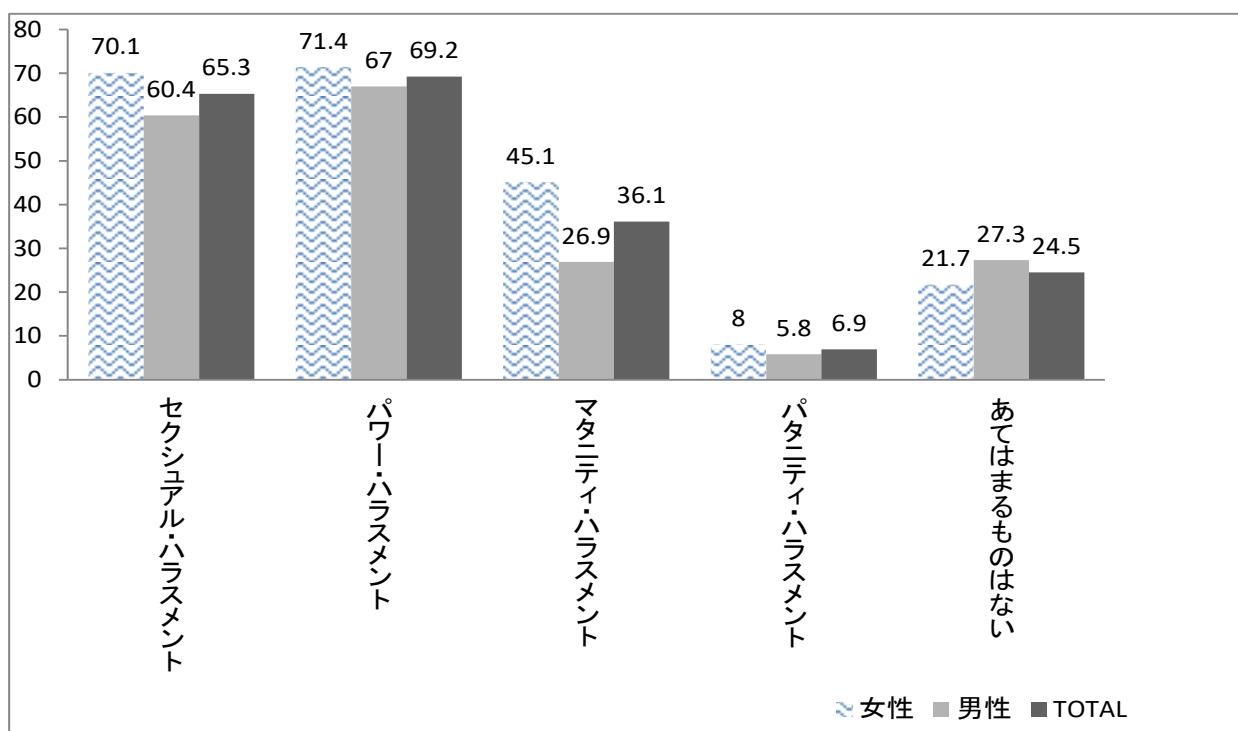
認知度は、セクシュアル・ハラスメントが最も高く、パワー・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメントと続く。

直接経験したことがあるものは、パワー・ハラスメントが男女とも25%を超えており最も高い。

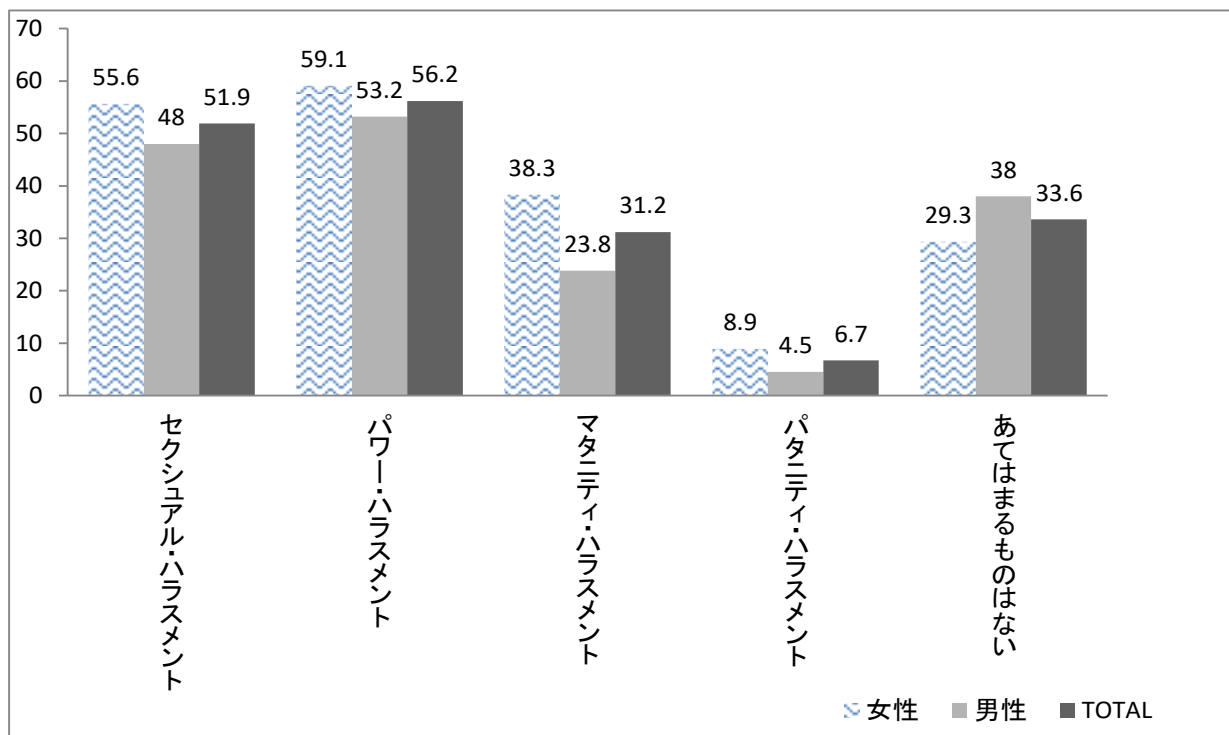
### ●ご存じのもの



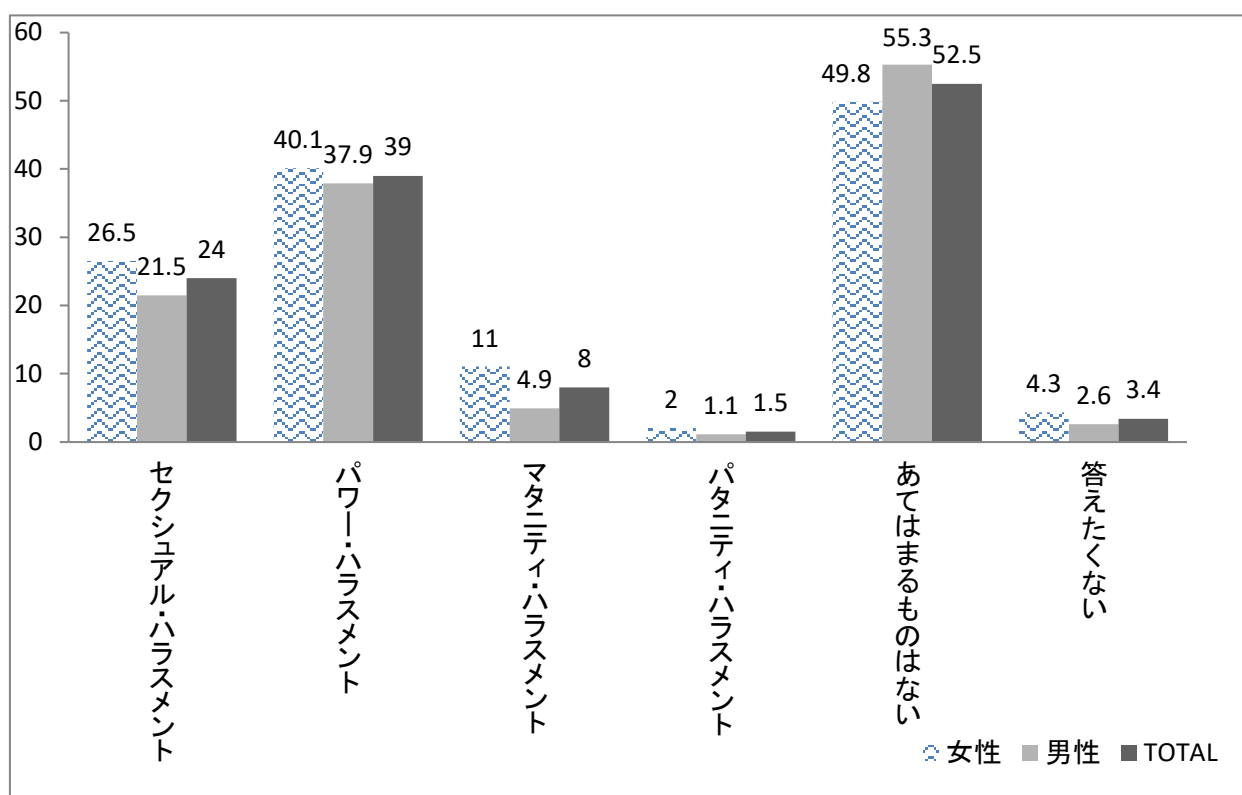
### ●具体事例まで見聞きしたことがあるもの



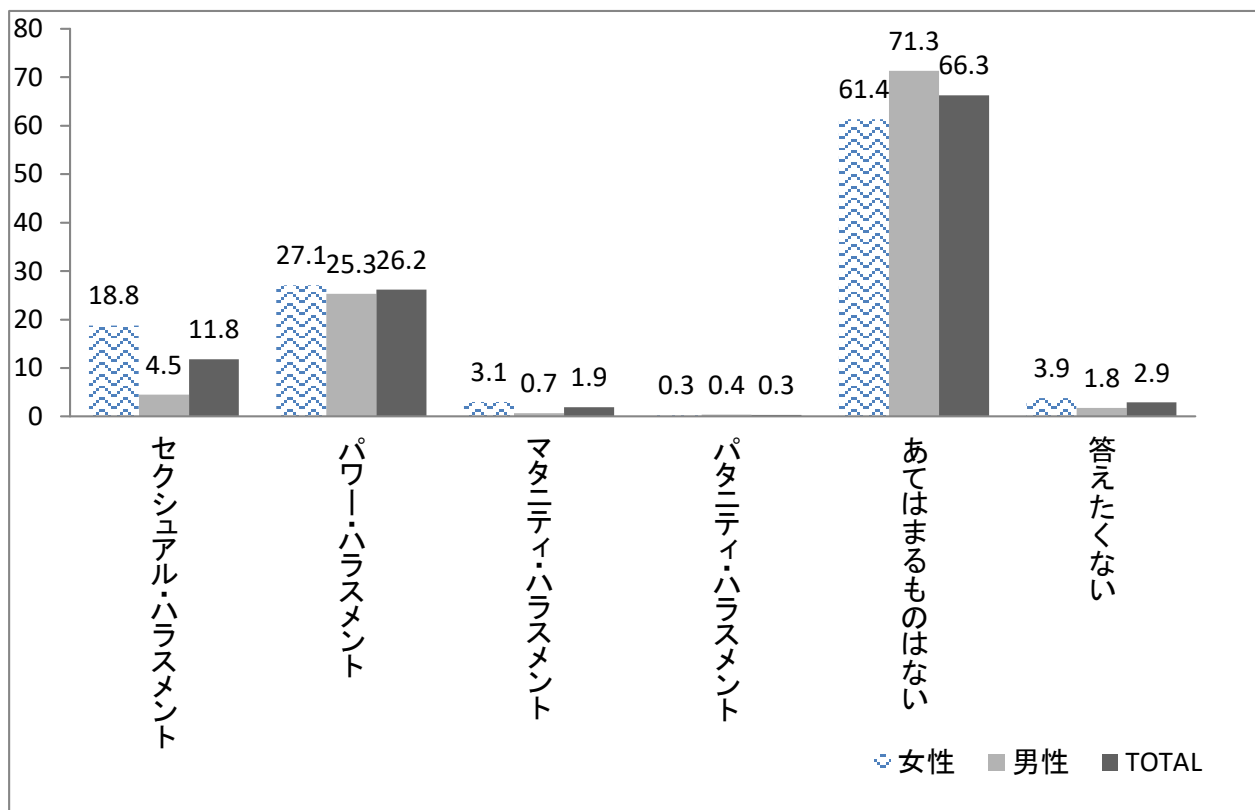
●周囲に経験者はいないが、話を聞いたことがある



●友人や職場の仲間など身近に経験者がいるもの



●直接経験したことがあるもの



	セクシュアル・ハラスメント		パワー・ハラスメント		マタニティ・ハラスメント		パタニティ・ハラスメント	
	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性
ご存じのもの	96.1%	92.6%	93.8%	90.7%	86.1%	75.8%	25.0%	18.0%
具体事例まで見聞きしたことがあるもの	70.1%	60.4%	71.4%	67.0%	45.1%	26.9%	8.0%	5.8%
周囲に経験者はいないが、話しを聞いたことがある	55.6%	48.0%	59.1%	53.2%	38.3%	23.8%	8.9%	4.5%
友人や職場の仲間など身近に経験者がいるもの	26.5%	21.5%	40.1%	37.9%	11.0%	4.9%	2.0%	1.1%
直接経験したことがある	18.8%	4.5%	27.1%	25.3%	3.1%	0.7%	0.3%	0.4%



## セクシュアル・ハラスメント

「直接経験したことがある」は、女性が 18.8%で前回より 0.6 ポイント減少しているが、男性は 4.5%で 1.6 ポイント上昇。

「直接経験したことはないが～自分の周囲に経験者がいる」は、女性は 26.5%で前回より 10.7 ポイント上昇。男性は 21.5%で 7.2 ポイント上昇。

	今回		前回	
	女性	男性	女性	男性
直接経験したことがある (直接経験したことがある)	18.8% (-0.6)	4.5% (+1.6)	19.4%	2.9%
友人や職場の仲間など身近に経験者がいる (直接経験したことは無いが、友人や職場の仲間など、自分の周囲に経験者がいる)	26.5% (+10.7)	21.5% (+7.2)	15.8%	14.3%
周囲に経験者はいないが、話を聞いたことはある	55.6% (+17.9)	48.0% (+9.5)	37.7%	38.5%
具体的事例まで見聞きしたことがあるで、セクシュアル・ハラスメントを選択しなかった方 (セクシュアル・ハラスメントとは何かは知っているが、事例を見聞きしたことはない)	29.9% (+3.3)	39.6% (-3.5)	26.6%	43.1%
ご存じのものでセクシュアル・ハラスメントを選択しなかった方 (セクシュアル・ハラスメントとは何か知らない)	3.9% (+3.4)	6.2% (+5.0)	0.5%	1.2%

※ ( ) 内は前回の選択肢。

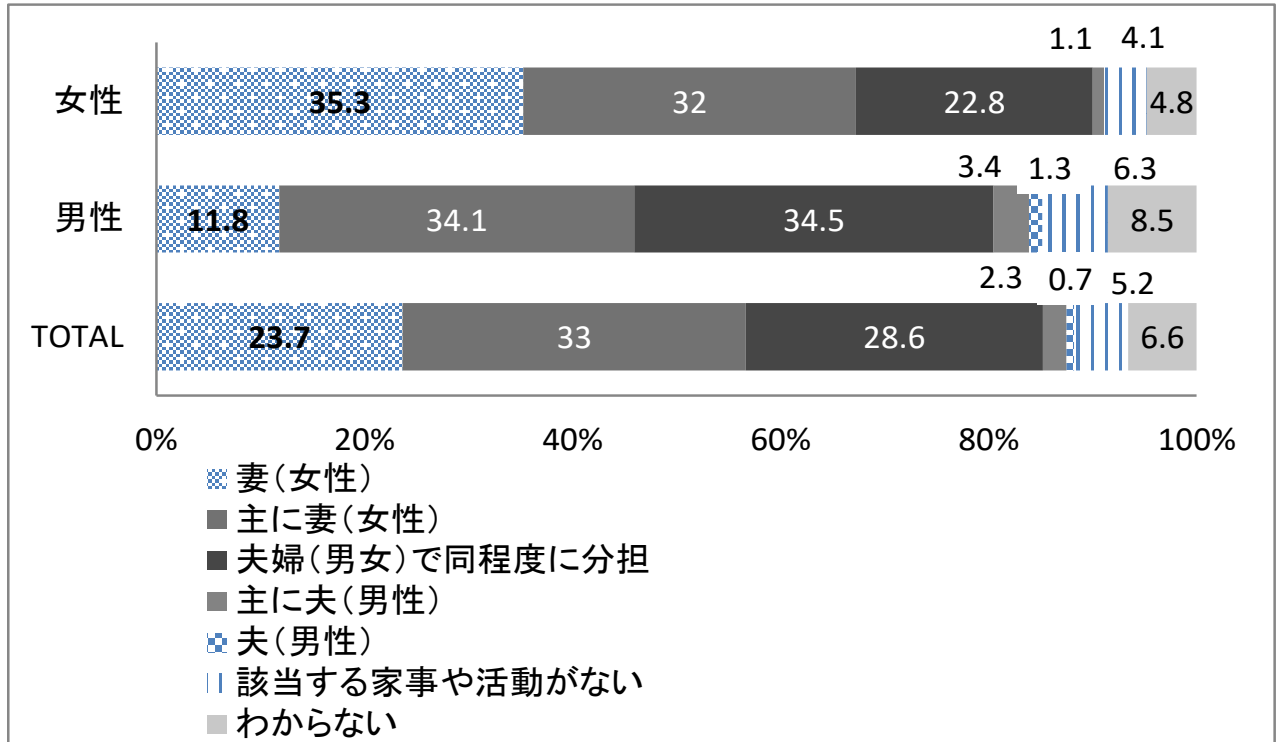
【Q7 配偶者（パートナー）との家事等の分担】

男女とも、「主に女性が分担」が特に高いのは、「食事の準備・後かたづけ、洗濯、掃除等の家事」「育児」。

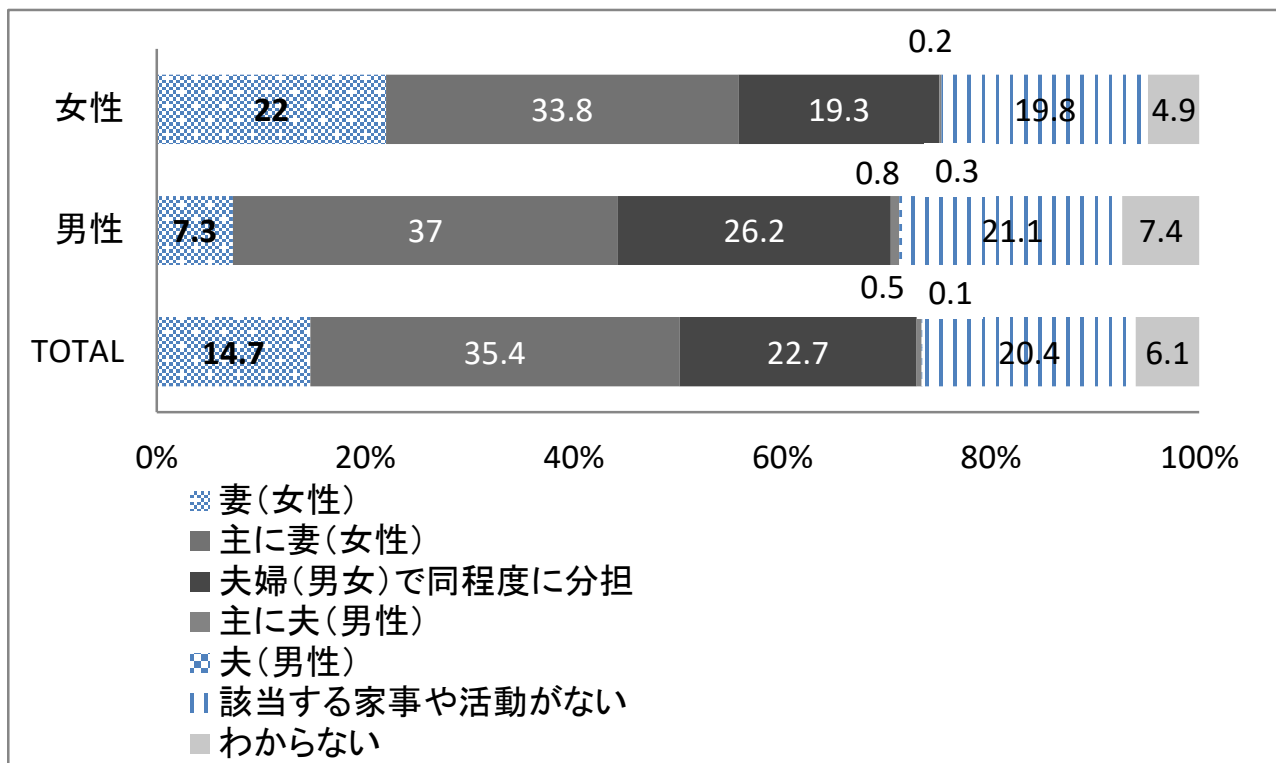
対等に分担している比率が高いのは、「高齢者などの介護」、「高価な物品を購入するときの判断」。

男性は「対等」が高いが、女性は男性より「主に女性が分担」が高いのは、「町内会・自治会、地域の行事などの地域活動」「預貯金や財産の管理」。

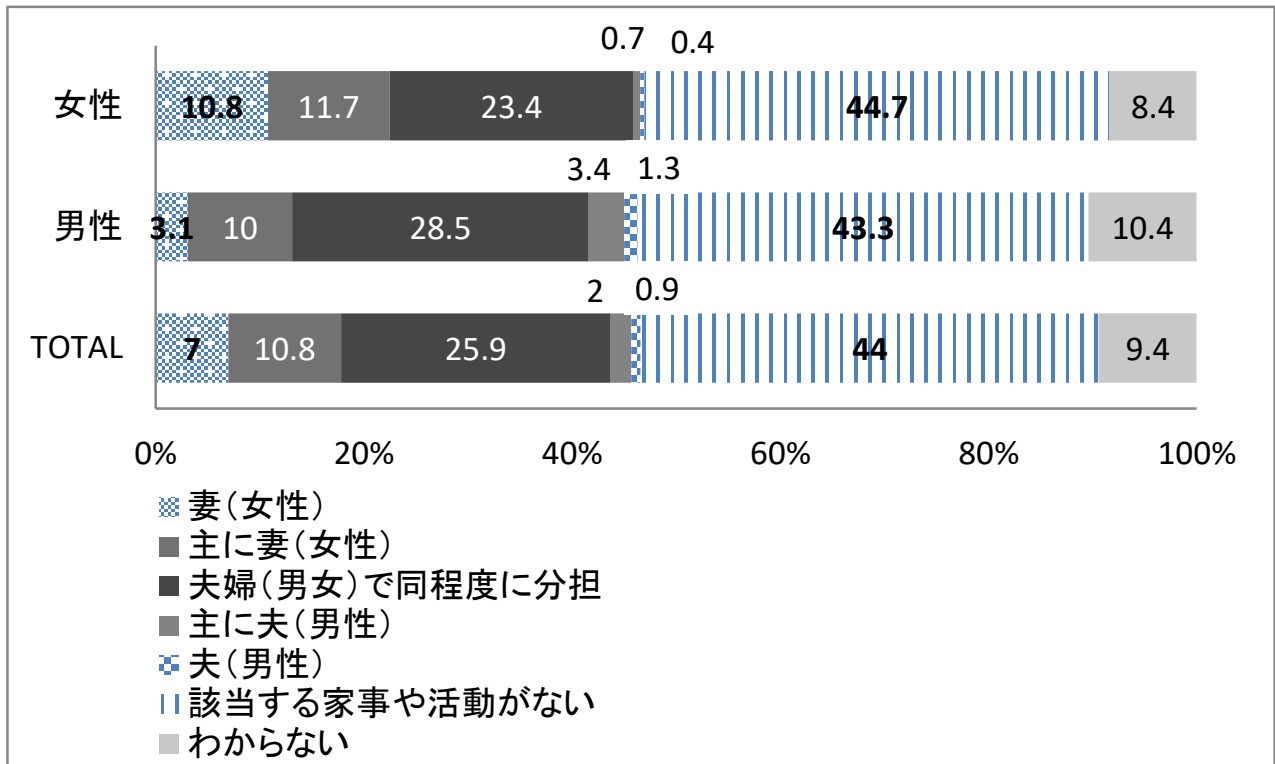
● 食事の準備・後かたづけ、洗濯、掃除等の家事



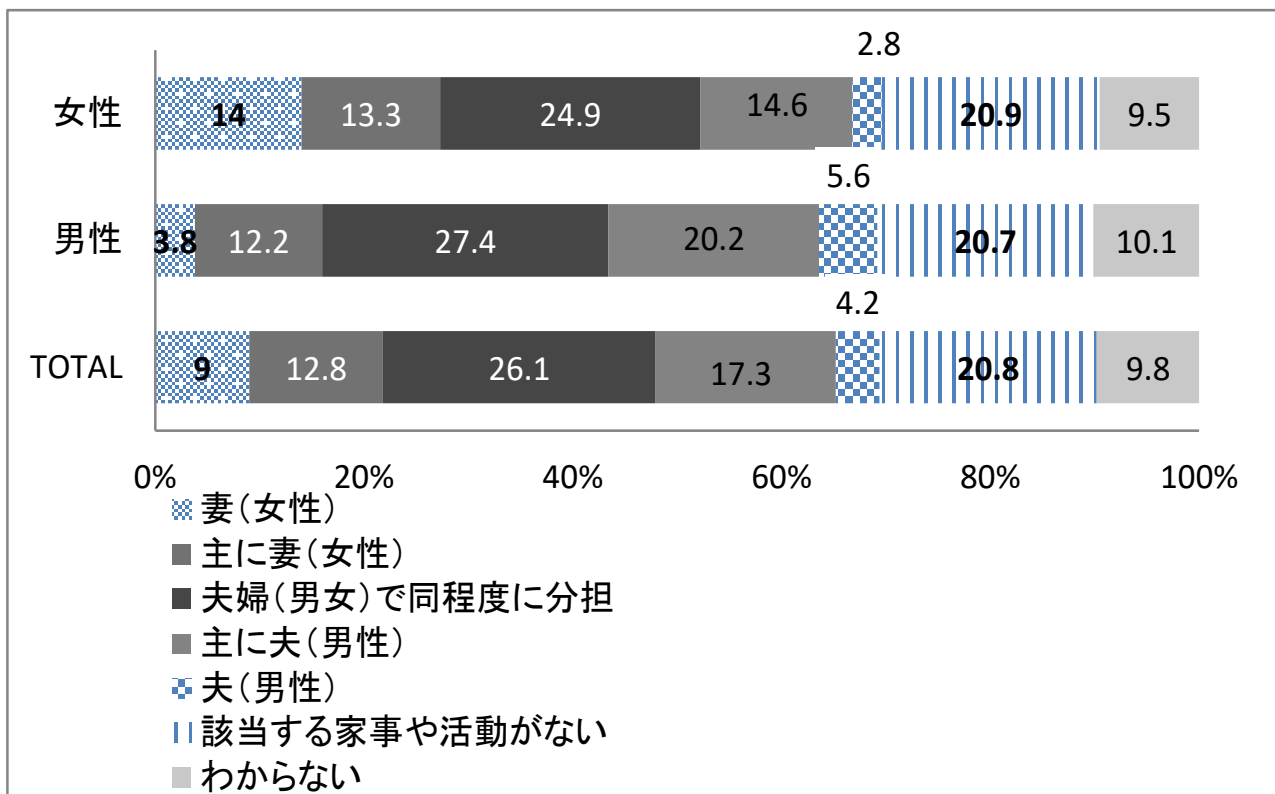
● 育児



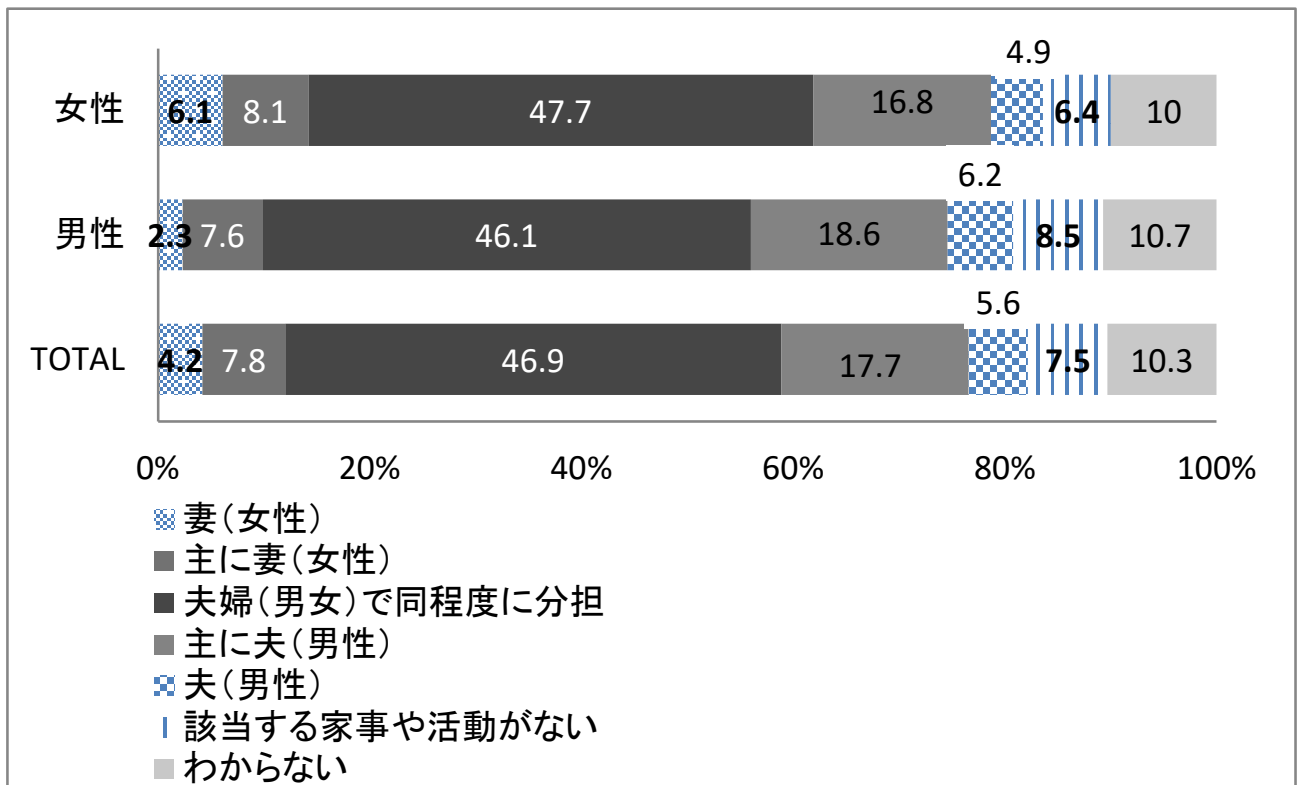
● 高齢者などの介護



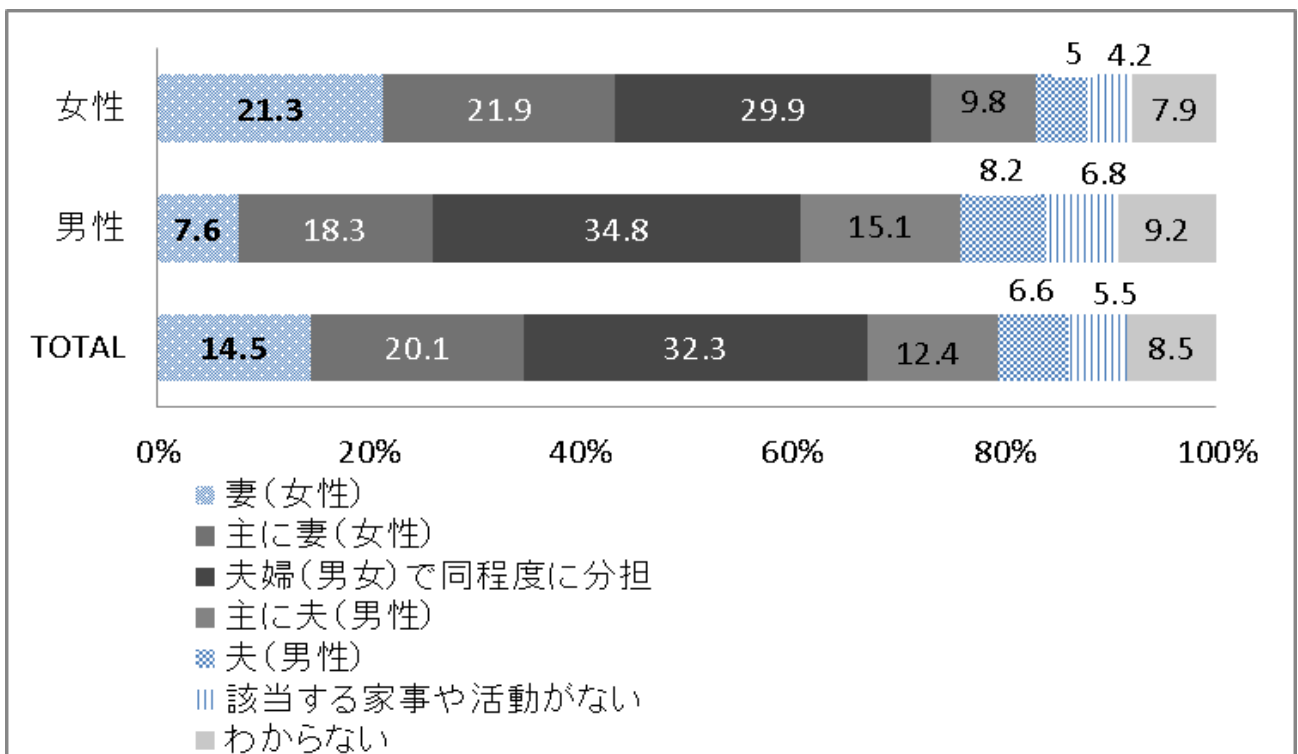
● 町内会・自治会、地域の行事などの地域活動



● 高価な物品を購入するときの判断



● 預貯金や財産の管理



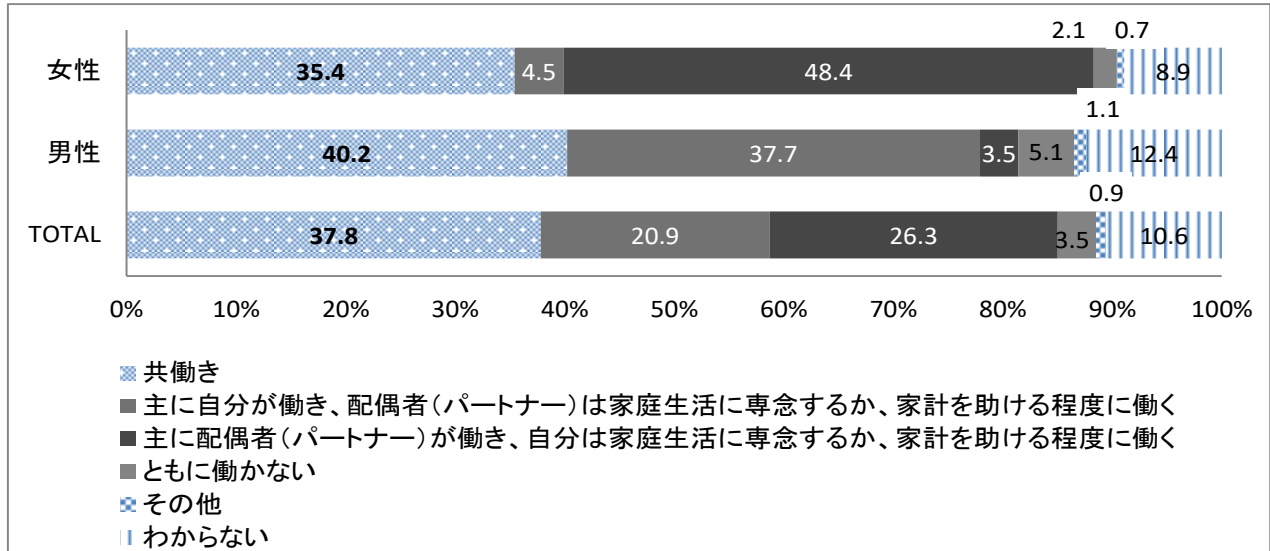
	女性			男性		
	主に女性	同程度	主に男性	主に女性	同程度	主に男性
食事の準備・後かたづけ、洗濯、掃除等の家事	67.3% (+3.5)	22.8% (-6.4)	1.1% (+0.1)	45.9% (-7.5)	34.5% (-2.8)	4.7% (+2.7)
前回	63.8%	29.2%	1.0%	53.4%	37.3%	2.0%
育児	55.8% (+3.3)	19.3% (-8.1)	0.2% (-0.1)	44.3% (-1.9)	26.2% (-9.2)	1.1% (±0)
前回	52.5%	27.4%	0.3%	46.2%	35.4%	1.1%
高齢者などの介護	22.5% (+3.3)	23.4% (-6.4)	1.1% (-0.2)	13.1% (-0.6)	28.5% (-10.7)	4.7% (+2.2)
前回	19.2%	29.8%	1.3%	13.7%	39.2%	2.5%
町内会・自治会、地域の行事などの地域活動	27.3% (-2.8)	24.9% (-9.2)	17.4% (+3.2)	16.0% (-5.6)	27.4% (-9.6)	25.8% (+4.6)
前回	30.1%	34.1%	14.2%	21.6%	37.0%	21.2%
高価な物品を購入するときの判断	14.2% (+0.6)	47.7% (-10.2)	21.7% (+1.0)	9.9% (+0.3)	46.1% (-6.8)	24.8% (-3.7)
前回	13.6%	57.9%	20.7%	9.6%	52.9%	28.5%
預貯金や財産の管理	43.2% (-4.6)	29.9% (-5.3)	14.8% (+5.2)	25.9% (-2.3)	34.8% (-4.6)	23.3% (-0.9)
前回	47.8%	35.2%	9.6%	28.2%	39.4%	24.2%

※「育児」「高齢者などの介護」など各回答の比率が低いものは、子どもがいない、要介護者がいない等の理由で「該当する家事や活動がない」と答えた者が高いため。

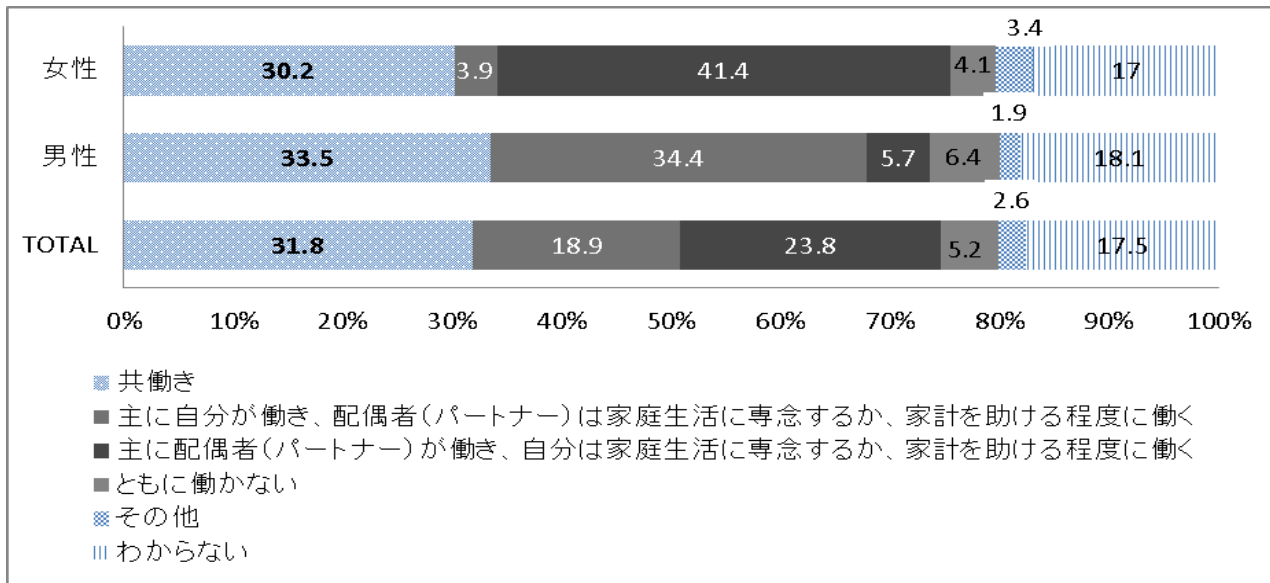
## 【Q8 男女の働き方の希望と現実】

「共働き」は、女性の35%、男性の40.2%が希望しているが、現実には女性30.2%、男性33.5%。希望と現実が一致しない理由は、男女とも「共働きでなければ十分な収入が得られないため」が最も多い（女性20.8%、男性23.9%）。

### ●希望

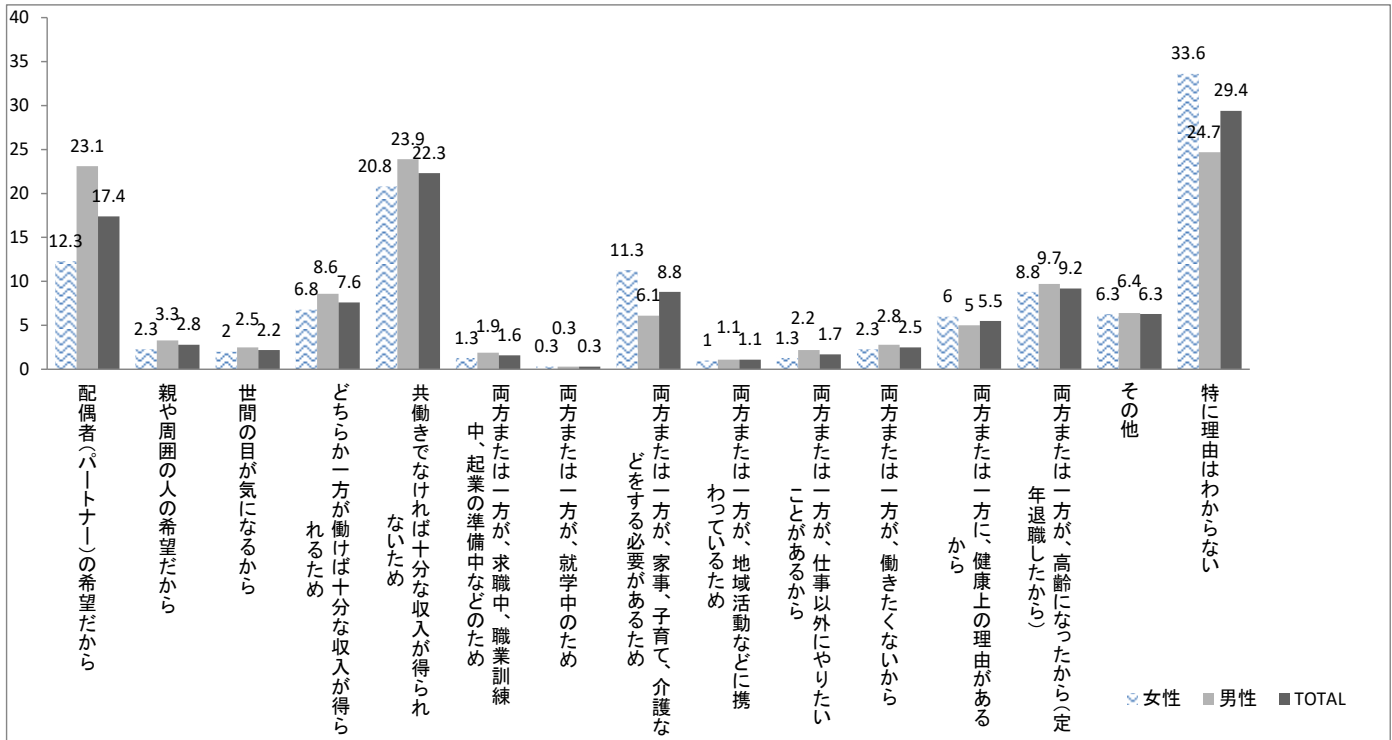


### ●現実(実情)



	女性		男性	
	希望	現実	希望	現実
共働き	35.4%	30.2%	40.2%	33.5%
前回	33.8%	35.8%	37.0%	34.9%
主に自分が働き、配偶者は家庭生活に専念するか、家計を助ける程度に働く	4.5%	3.9%	37.7%	34.4%
前回	3.5%	8.2%	50.5%	29.7%
主に配偶者が働き、自分は家庭生活に専念するか、家計を助ける程度に働く	48.4%	41.4%	3.5%	5.7%
前回	56.4%	30.6%	4.5%	8.1%

【Q9 男女の働き方の希望と現実が一致しない理由】

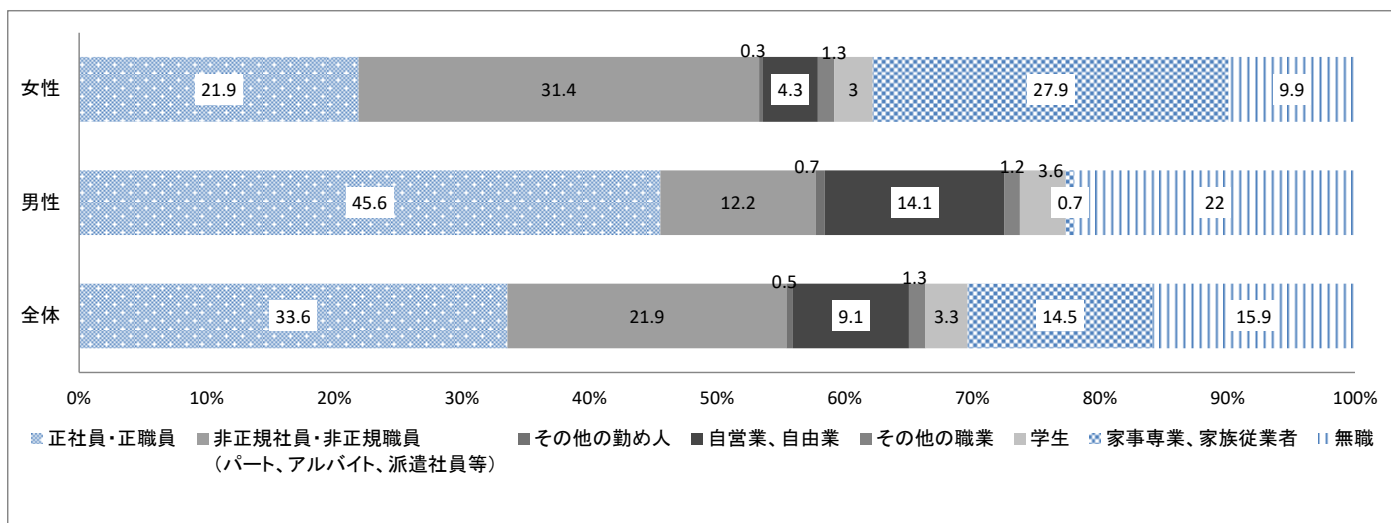


男女の働き方の希望と現実が一致しない理由（上位3位）

	女性	男性
共働きでなければ十分な収入が得られないため	20.8%	23.9%
両方または一方が、高齢になったから（定年退職したから）	8.8%	9.7%
配偶者（パートナー）の希望だから	12.3%	23.1%

※特に理由はない、わからないと答えた方、女性 33.6%、男性 24.7%

【Q10 就業状況】



就業状況別構成	女性	男性	全体
正社員・正職員	21.9%	45.6%	33.6%
非正規社員・非正規職員 (パート、アルバイト、派遣社員等)	31.4%	12.2%	21.9%
その他の勤め人	0.3%	0.7%	0.5%
自営業、自由業	4.3%	14.1%	9.1%
その他の職業	1.3%	1.2%	1.3%
学生	3%	3.6%	3.3%
家事専業、家族従業者	27.9%	0.7%	14.5%
無職	9.9%	22%	15.9%

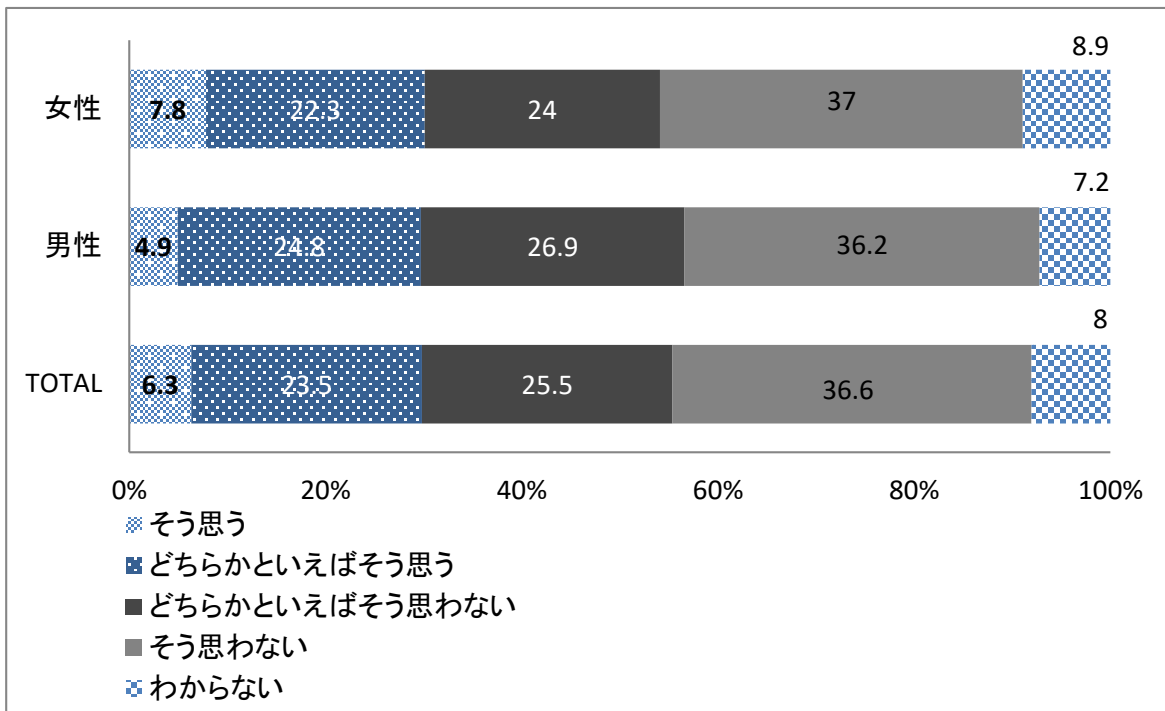


**【Q11 職場の状況について】**

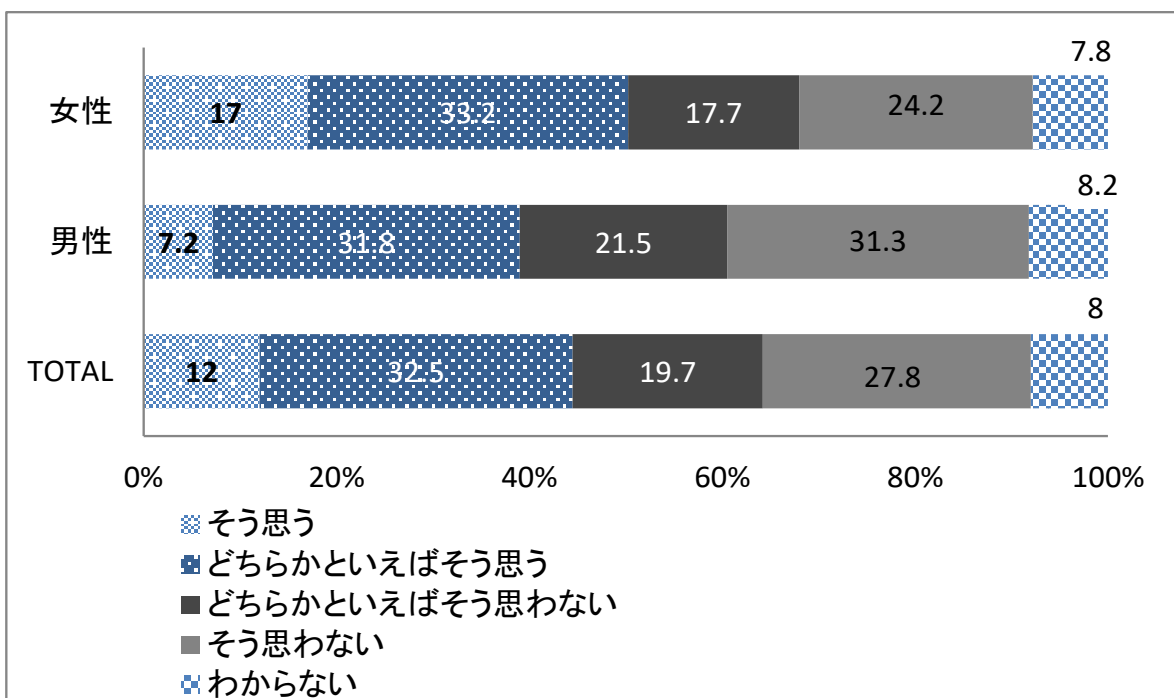
男女とも50%以上が肯定しているのは、「男性の方が育児休暇や介護休暇を取りにくい」「男性の方が残業が多い」

女性のみ50%以上が肯定しているのは、「女性は男性より賃金が低い、昇進が遅い」、「女性は管理職に登用されにくい」、「能力がある女性でも、男性より就きにくい職種がある」、「補助的な仕事や雑用が女性に偏っている」、「結婚や出産に際して、女性が働き続けることが難しい」

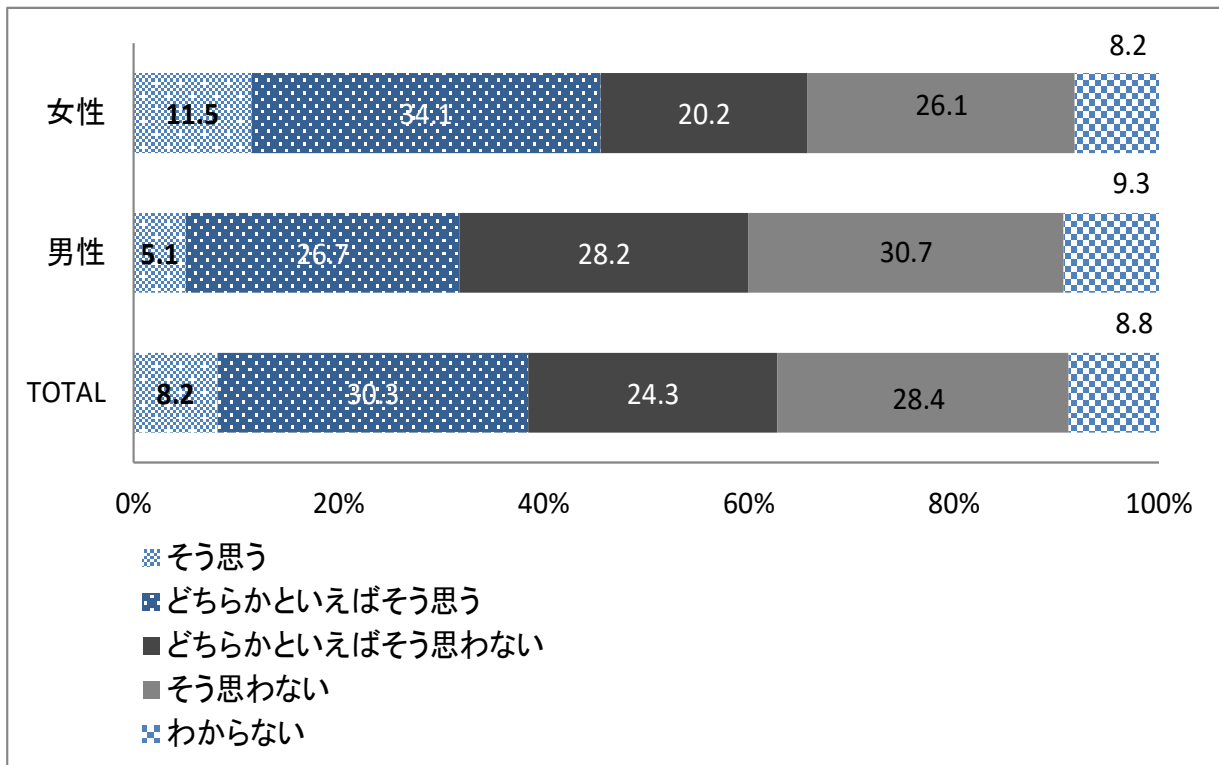
● 採用条件が女性に不利



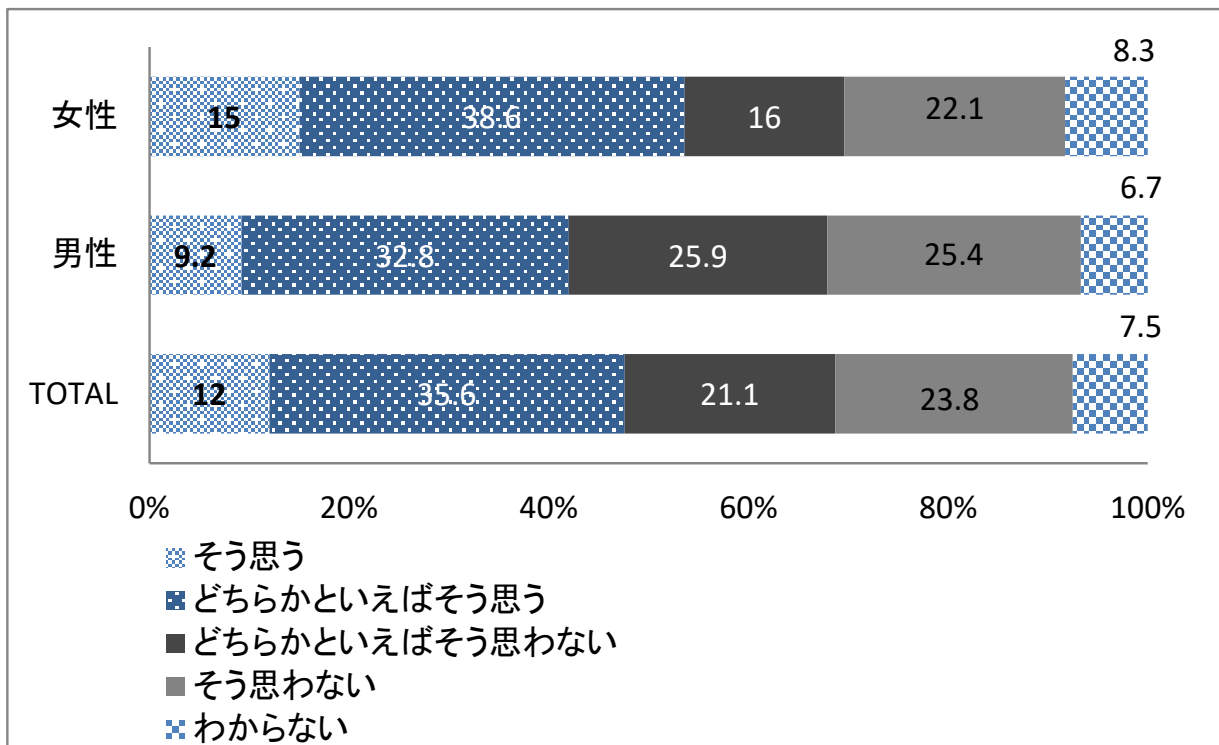
● 女性は男性より賃金が低い、昇進が遅い



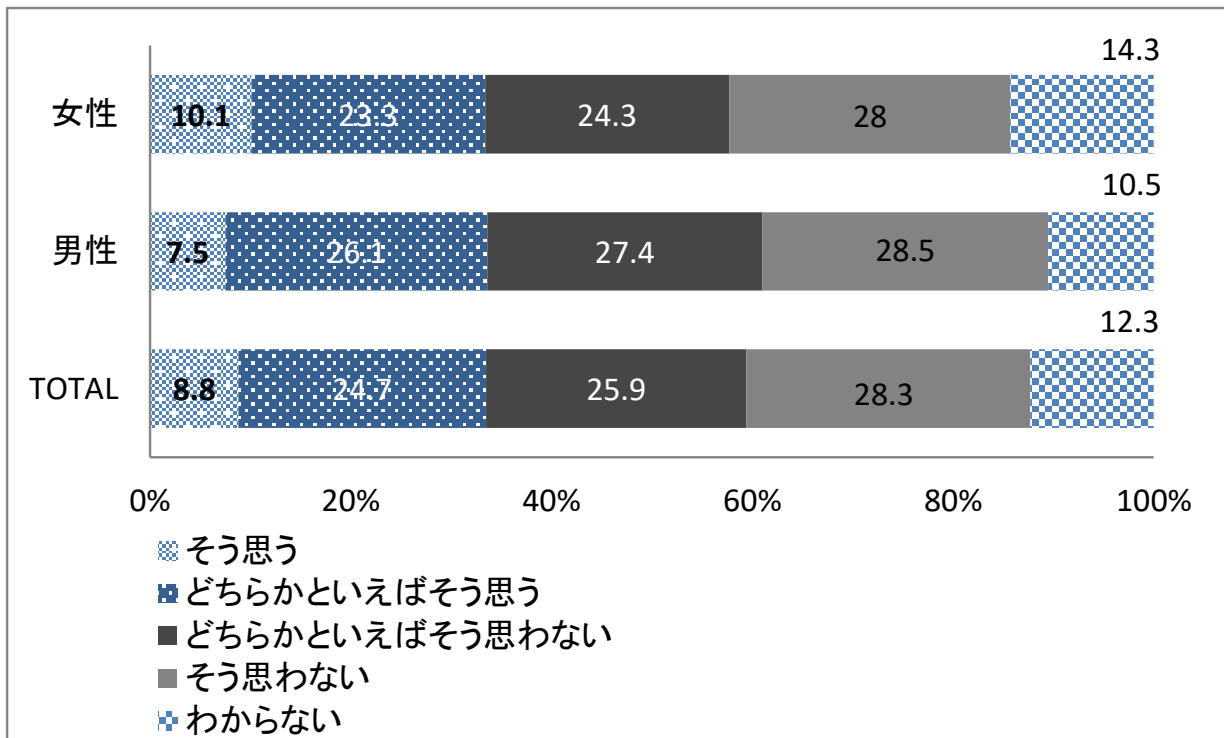
● 能力評価が男女平等ではない



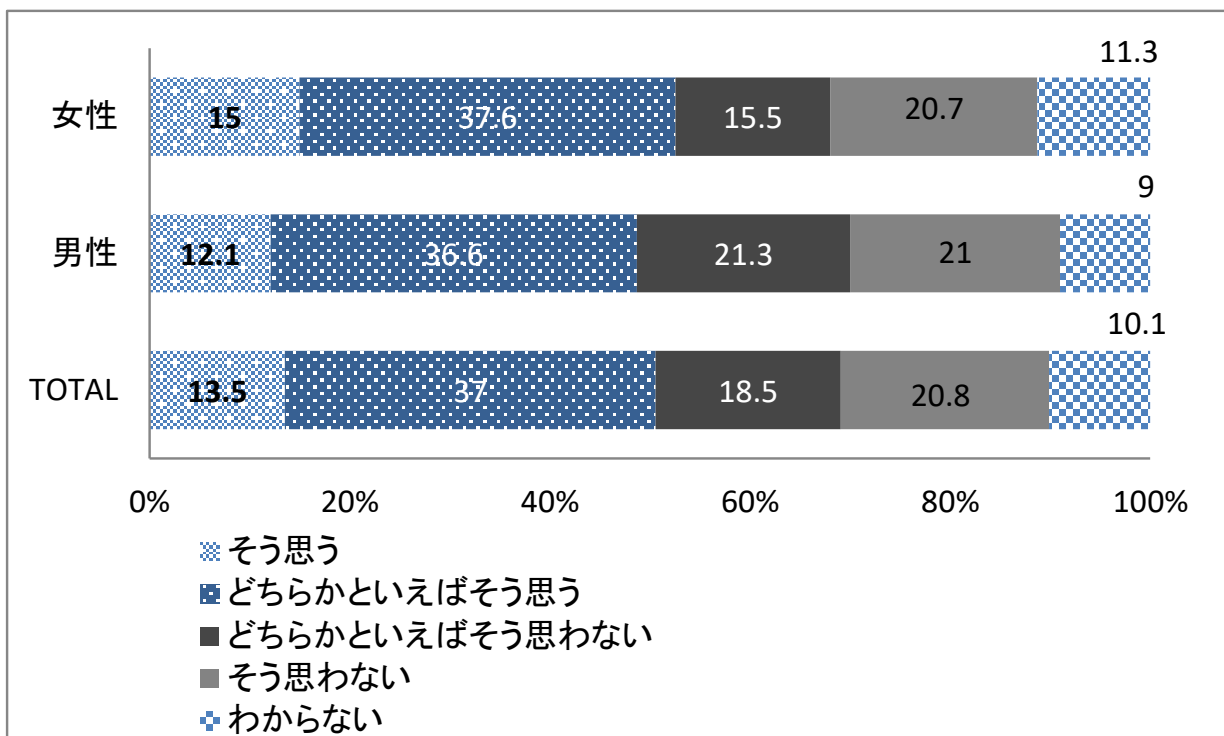
● 女性は管理職に登用されにくい



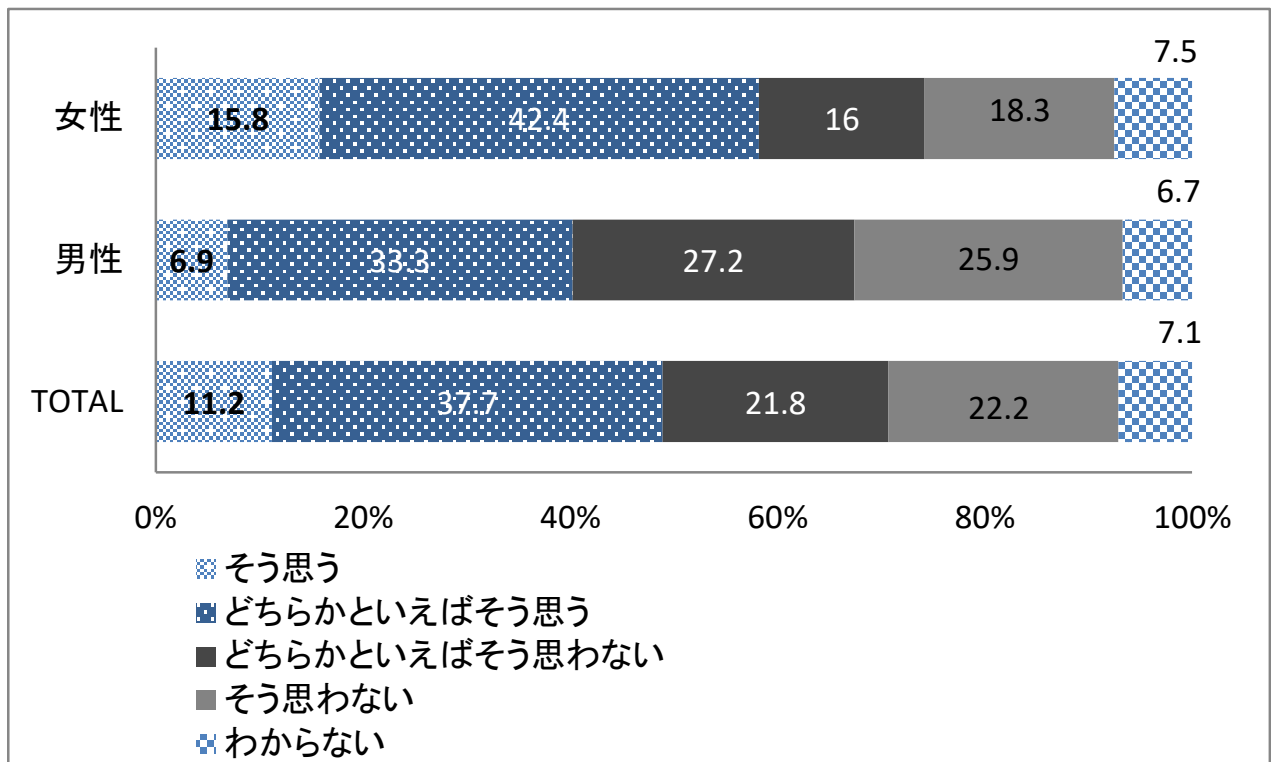
● 配置転換に性別による差がある



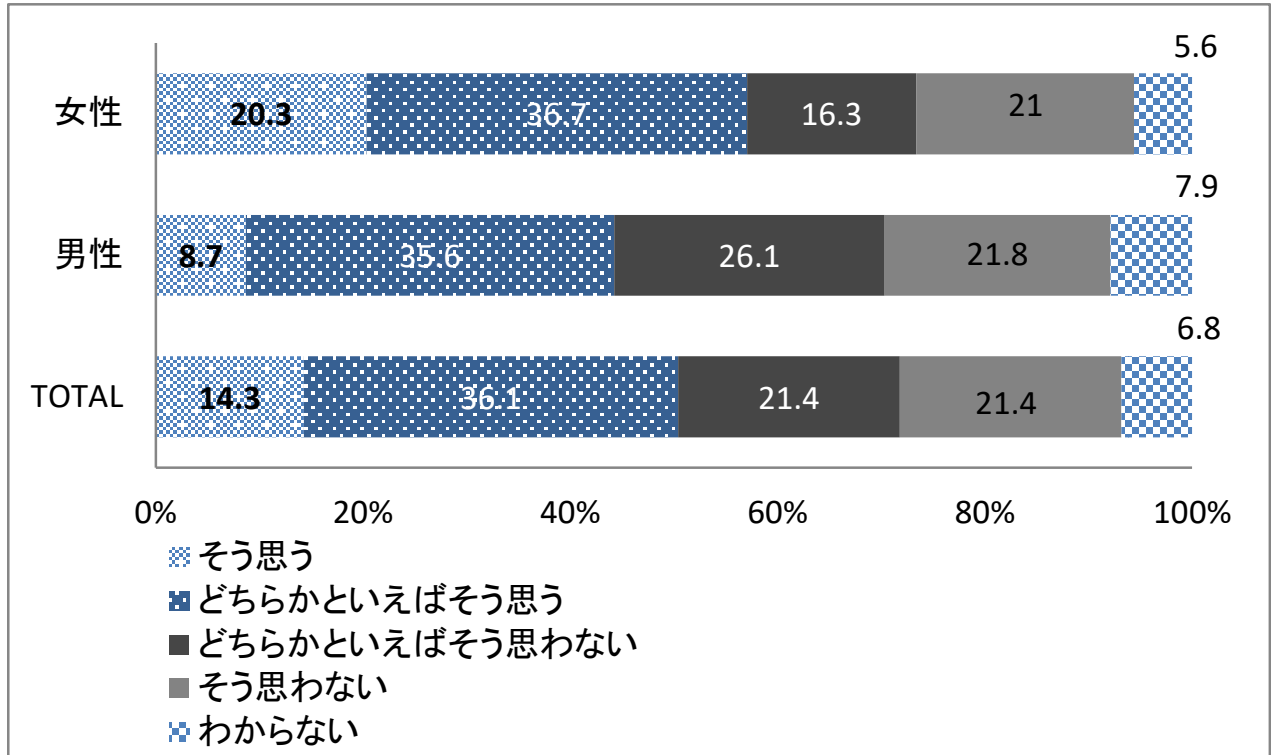
● 能力がある女性でも、男性より就きにくい職種がある



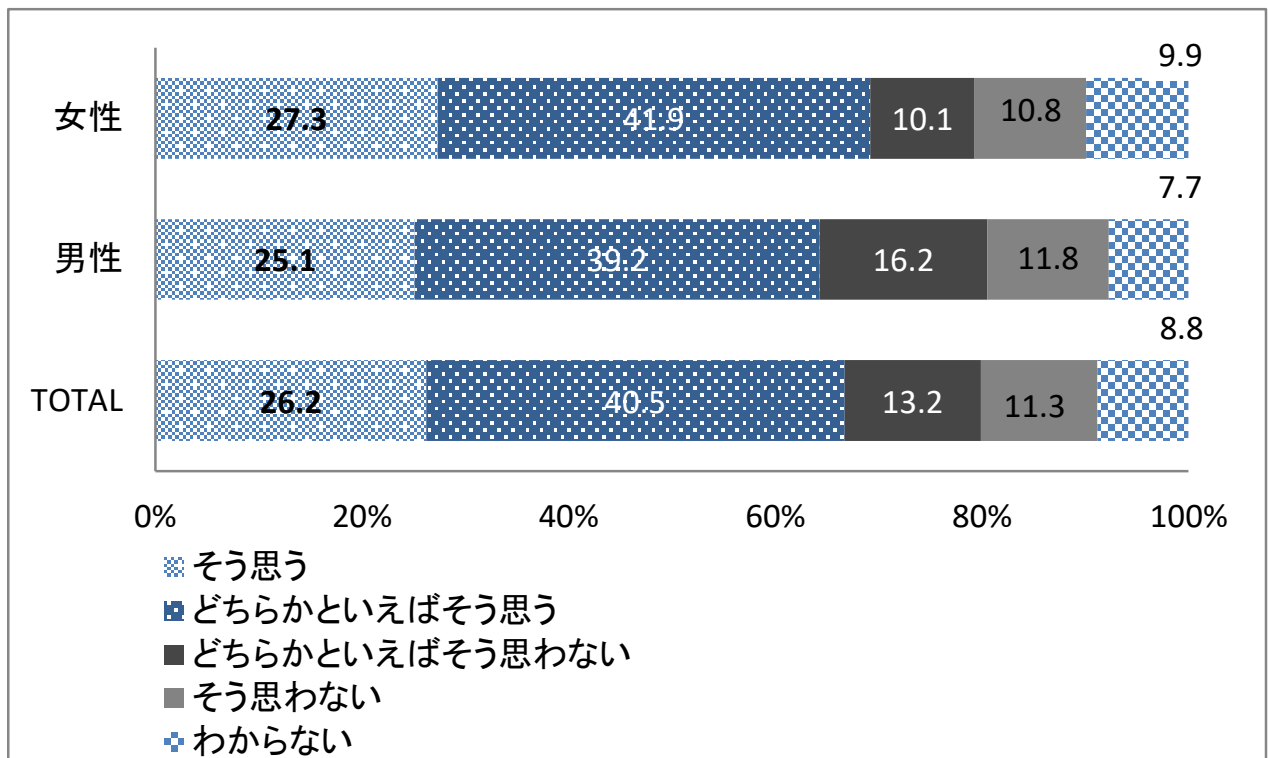
● 補助的な仕事や雑用が女性に偏っている



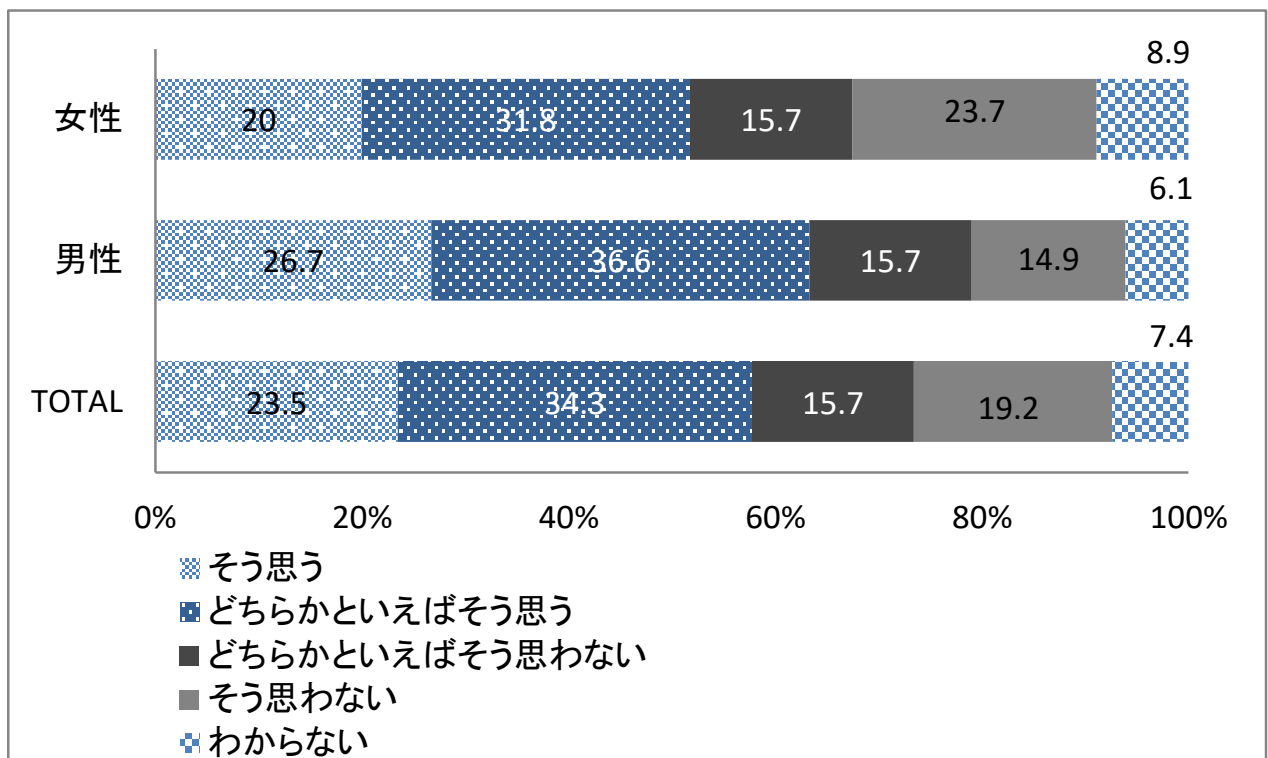
● 結婚や出産に際して、女性が働き続けることが難しい



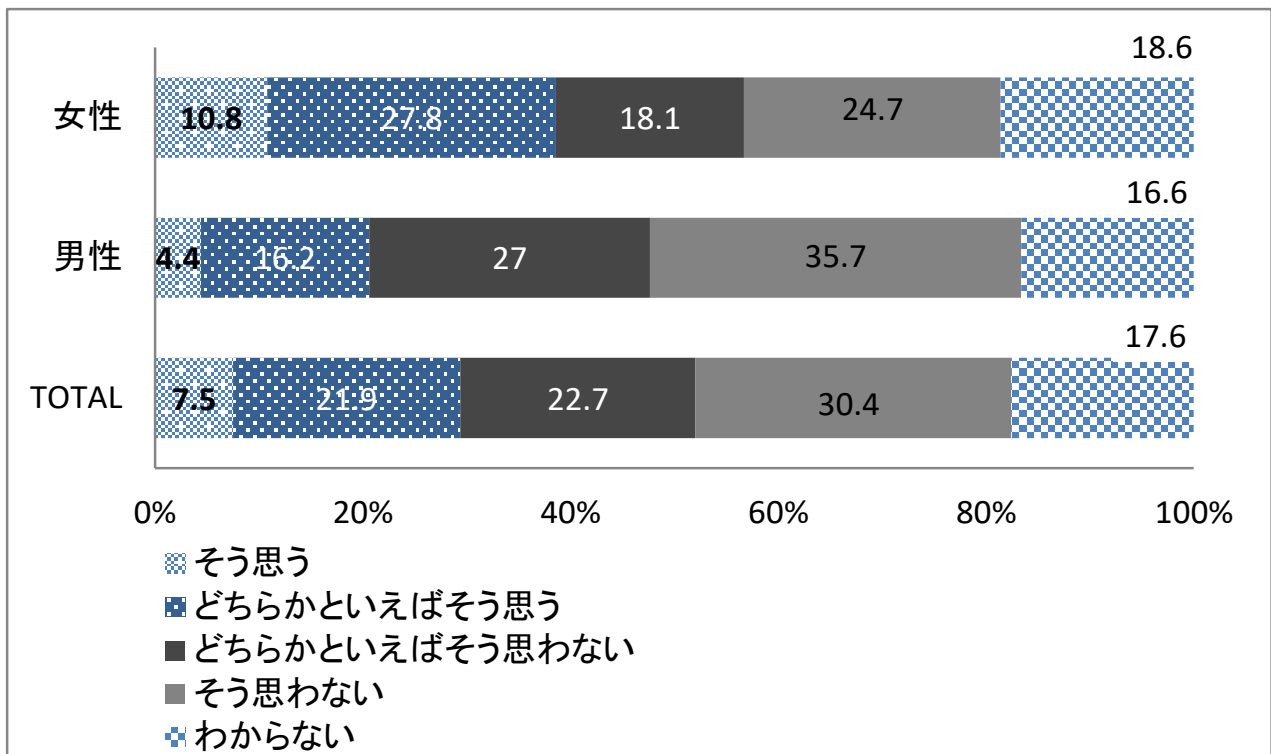
● 男性の方が育児休暇や介護休暇を取りにくい



● 男性の方が残業が多い



● 人員削減する場合、男性より女性の方が解雇されやすい



● 「そう思う・どちらかといえばそう思う」

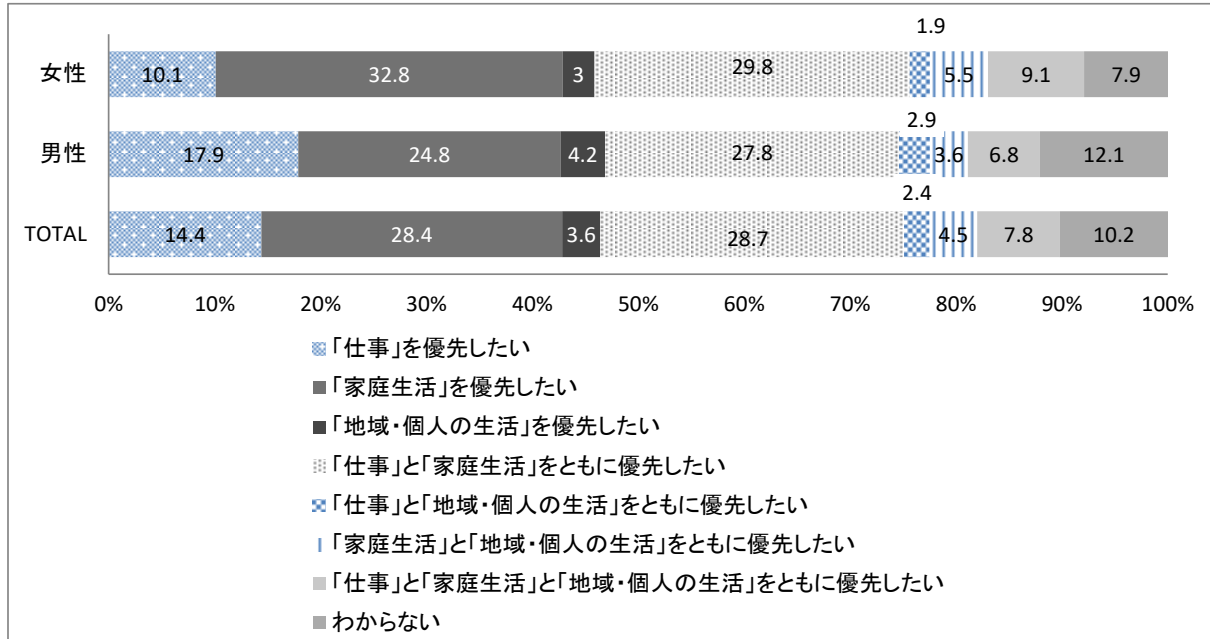
	今回		前回	
	女性	男性	女性	男性
採用条件が女性に不利	30.1% (-1.3)	29.7% (+1.0)	31.4%	28.7%
女性は男性より賃金が低い、昇進が遅い	50.2% (-0.1)	39.0% (+1.8)	50.3%	37.2%
能力評価が男女平等ではない	45.6% (+2.1)	31.8% (+1.4)	43.5%	30.4%
女性は管理職に登用されにくい	53.6% (+0.3)	42.0% (-0.1)	53.3%	42.1%
配置転換に性別による差がある	33.4% (-6.9)	33.6% (+3.4)	40.3%	30.2%
能力がある女性でも、男性より就きにくい職種がある	52.6% (-3.2)	48.7% (-4.0)	55.8%	52.7%
補助的な仕事や雑用が女性に偏っている	58.2% (-4.1)	40.2% (-1.2)	62.3%	41.4%
結婚や出産に際して、女性が働き続けることが難しい	57.0% (-1.1)	44.3% (-2.4)	58.1%	46.7%
男性の方が育児休暇や介護休暇を取りにくい	69.2% (+0.5)	64.3% (-7.4)	68.7%	71.7%
男性の方が残業が多い	51.8% (+4.8)	63.3% (+0.1)	47.0%	63.2%
人員削減する場合、男性より女性の方が解雇されやすい	38.6% (-4.7)	20.6% (-3.8)	43.3%	24.4%

## 【Q12 仕事と生活の調和の理想と現実】

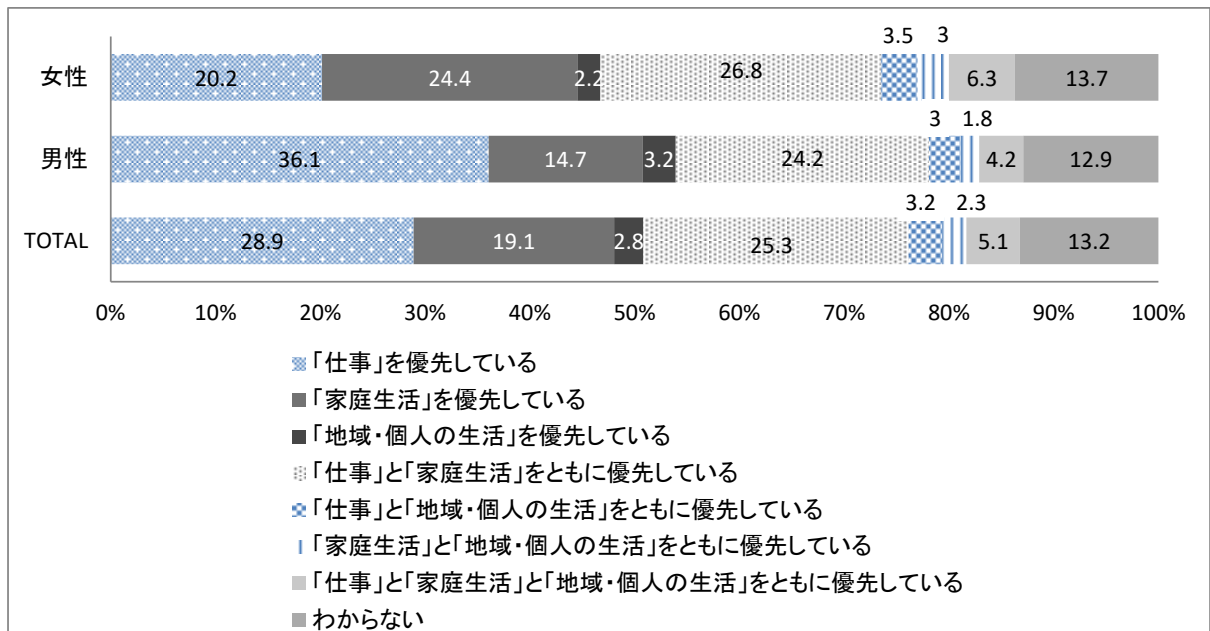
男女とも「仕事と仕事以外の生活」又は「仕事以外の生活」を優先したいと希望しているが、現実には「仕事を優先」が最も多い。しかし、前回調査と比較すると、希望と現実の差が縮小している。

希望と現実が一致しない理由は、男女とも「仕事が忙しい」「経済的な余裕がない」が多い。男性は63.9%が「仕事が忙しい」と回答。

### ●希望



### ●現実(現状)

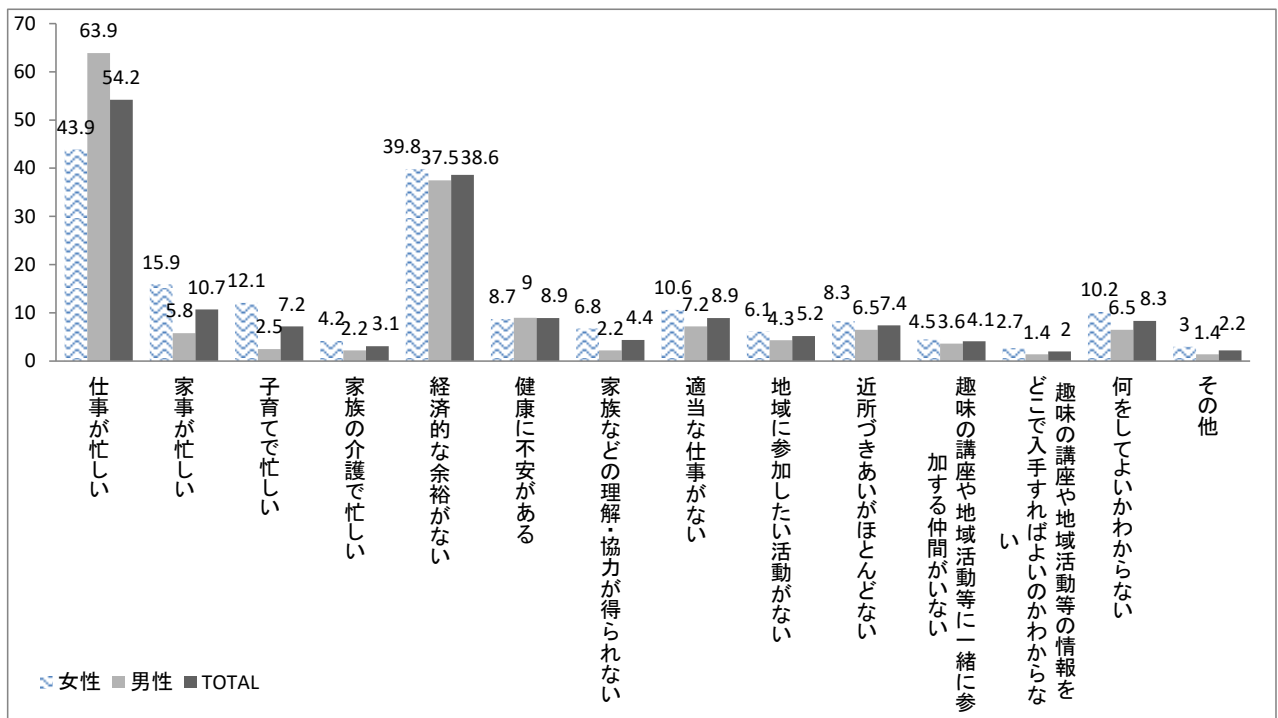


	女性		男性	
	希望	現実	希望	現実
「仕事」を優先	10.1% (+6.9)	20.2% (-26.8)	17.9% (11.4)	36.1% (-30.6)
前回	3.2%	47.0%	6.5%	66.7%
「仕事」と「仕事以外の生活」をともに優先	40.8% (-6.3)	36.6% (+17.6)	37.5% (-9.2)	31.4% (+19.6)
前回	47.1%	19.0%	46.7%	11.8%
「仕事以外の生活」を優先	41.3% (-2.7)	29.6% (+9.6)	32.6% (-7.8)	19.7% (+6.9)
前回	44.0%	17.3%	40.4%	12.8%

※選択肢を単純化するため、次のように括った。

- 「仕事」と「仕事以外の生活」をともに優先したい = 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい  
+ 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい  
+ 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「仕事以外の生活」を優先したい = 「家庭生活」を優先したい  
+ 「地域・個人の生活」を優先したい  
+ 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい

### 【Q13 仕事と生活の調和の希望と現実が一致しない理由】



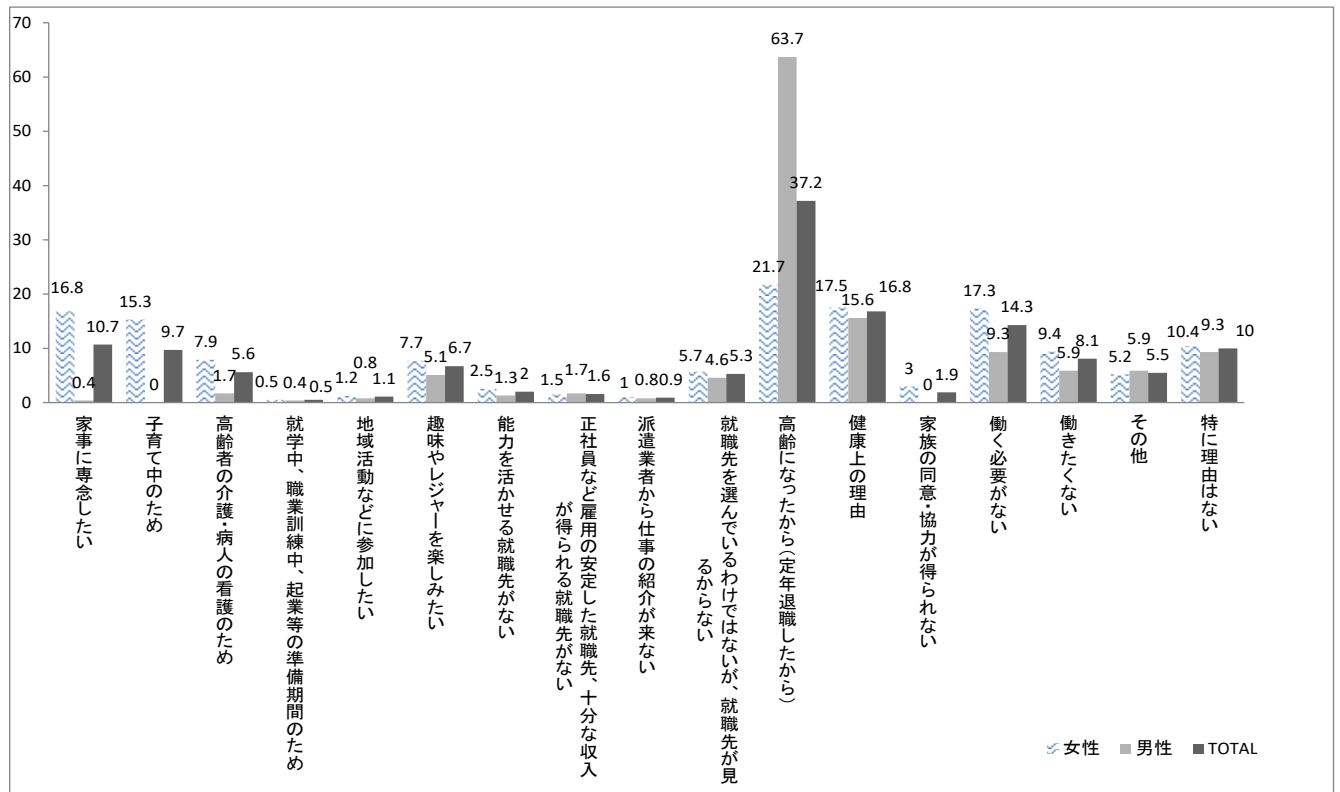
(男女いずれかが10%以上)

	女性	男性
仕事が忙しい	43.9%	63.9%
経済的な余裕がない	39.8%	37.5%
家事が忙しい	15.9%	5.8%



【Q14 非就業の理由】

「家事専業」「無職」の者の就業していない理由は、女性は「子育て中のため」「家事に専念したい」「健康上の理由」の割合が高い。  
 男性は「就職先を選んでいるわけではないが、就職先が見つからない」、「働く必要がない」、「健康上の理由」が多い。



●非就業の理由 (いずれかの年代で20%以上。「高齢になったから」は除く) (報告書P75)

【女性】(回答者のうち37.8%が非就業)

	20代	30代	40代	50代	60代	70代
子育て中のため	40.0%	51.6%	34.8%	3.7%	1.7%	1.3%
家事に専念したい	10.0%	25.8%	23.9%	18.3%	16.2%	6.4%
就職先を選んでいるわけではないが、就職先が見つからない	30.0%	8.1%	6.5%	6.1%	2.6%	1.3%
健康上の理由	20%	16.1%	19.6%	26.8%	15.4%	10.3%
働く必要がない	5%	9.7%	13%	18.3%	19.7%	24.4%
働きたくない	15%	24.2%	4.3%	4.9%	7.7%	6.4%

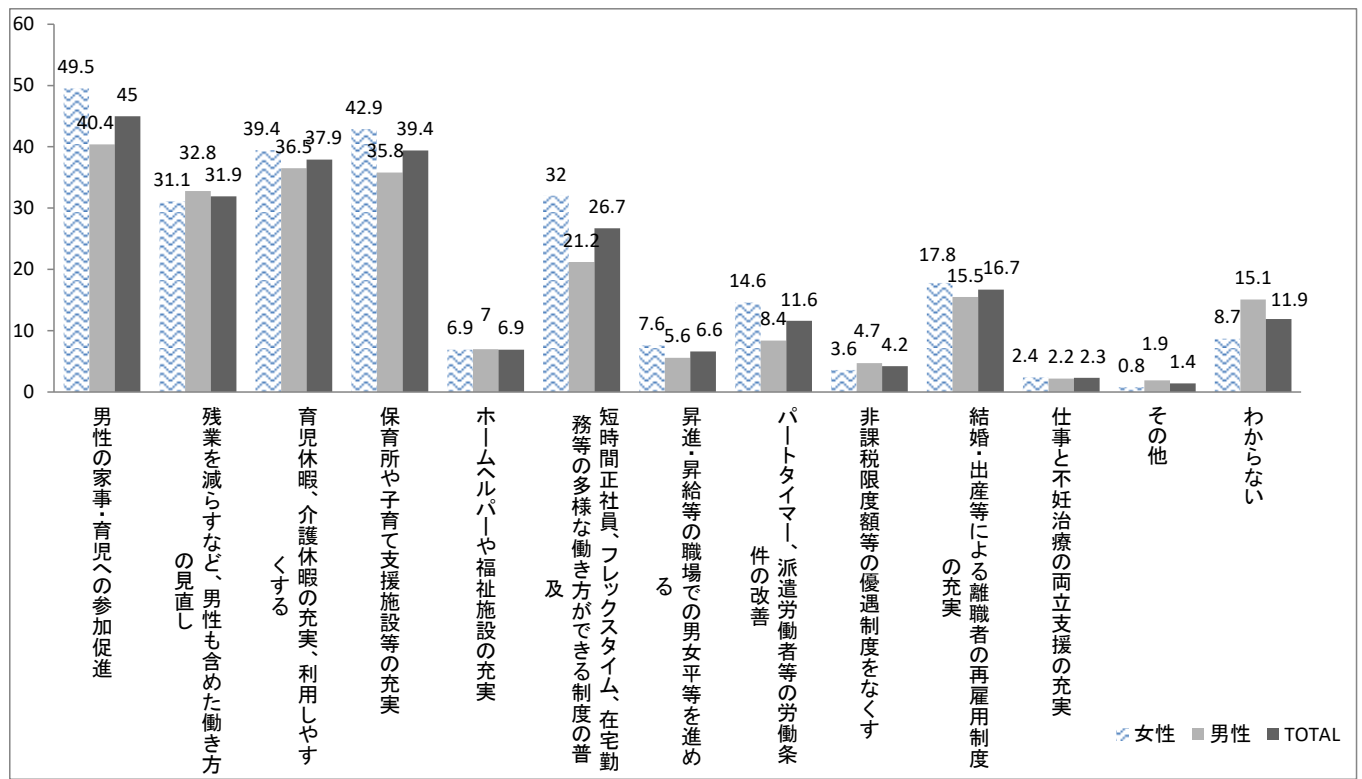
【男性】(回答者のうち22.7%が非就業)

	20代	30代	40代	50代	60代	70代
就職先を選んでいるわけではないが、就職先が見つからない	0%	20.0%	18.8%	23.1%	1.4%	1.7%
働く必要がない	0%	0%	0%	30.8%	12.3%	7.6%
健康上の理由	28.6%	40.0%	62.5%	30.8%	13.7%	5.9%

※男性の「家事専業」「無職」の者は各年代で少なく、回答のブレが大きい。

【Q15 女性の就業継続に必要なこと】

「男性の家事・育児への参加促進」が男女ともに一番高く、「保育所や子育て支援施設等の充実」、「育児休暇、介護休暇の充実、利用しやすくする」の順に高い。



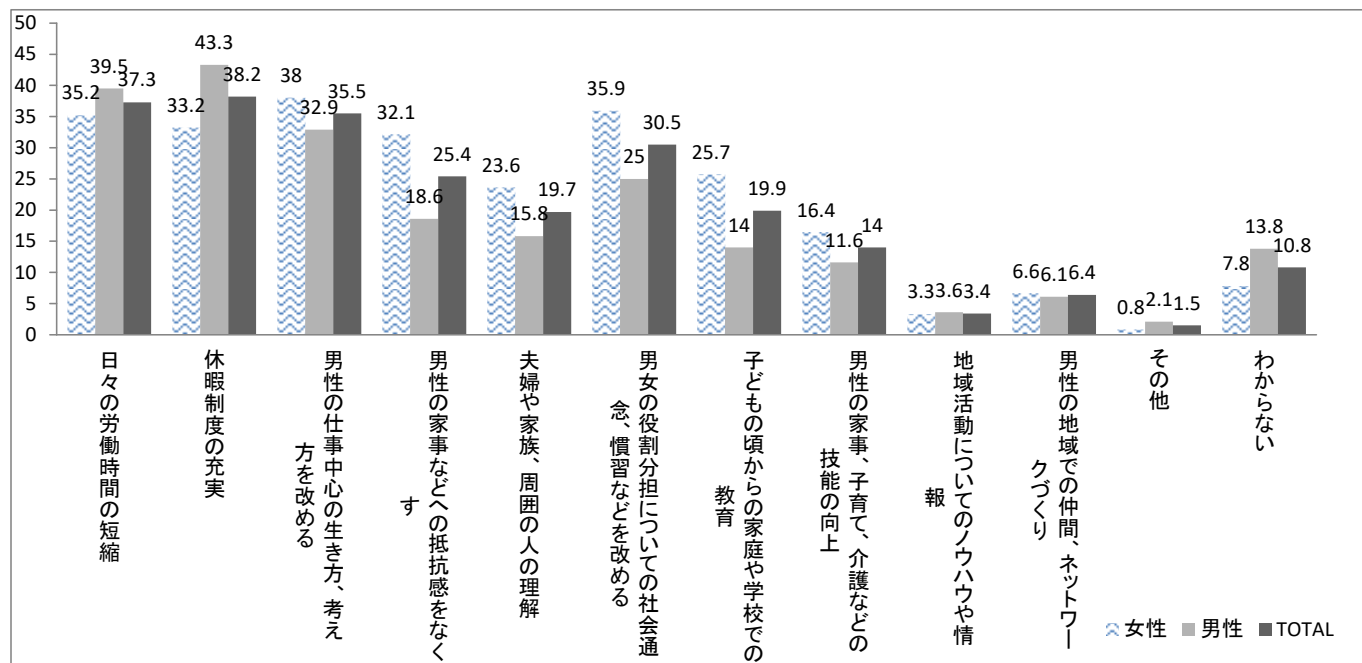
●男女いずれかが30%以上

	女性	男性
男性の家事・育児への参加促進	49.5%	40.4%
保育所や子育て支援施設等の充実	42.9%	35.8%
育児休暇、介護休暇の充実、利用しやすくする	39.4%	36.5%
短時間社員、フレックスタイム、在宅勤務等の多様な働き方ができる制度の普及	32.0%	21.2%
残業を減らすなど、男性も含めた働き方の見直し	31.1%	32.8%

【Q16 男性の家庭・地域への参画に必要なこと】

男性は「休暇制度の充実」「日々の労働時間の短縮」の順に高い。

女性は「男女の役割分担についての社会通念、慣習などを改める」「日々の労働時間の短縮」「休暇制度の充実」の順に高い。



●男女いずれかが20%以上

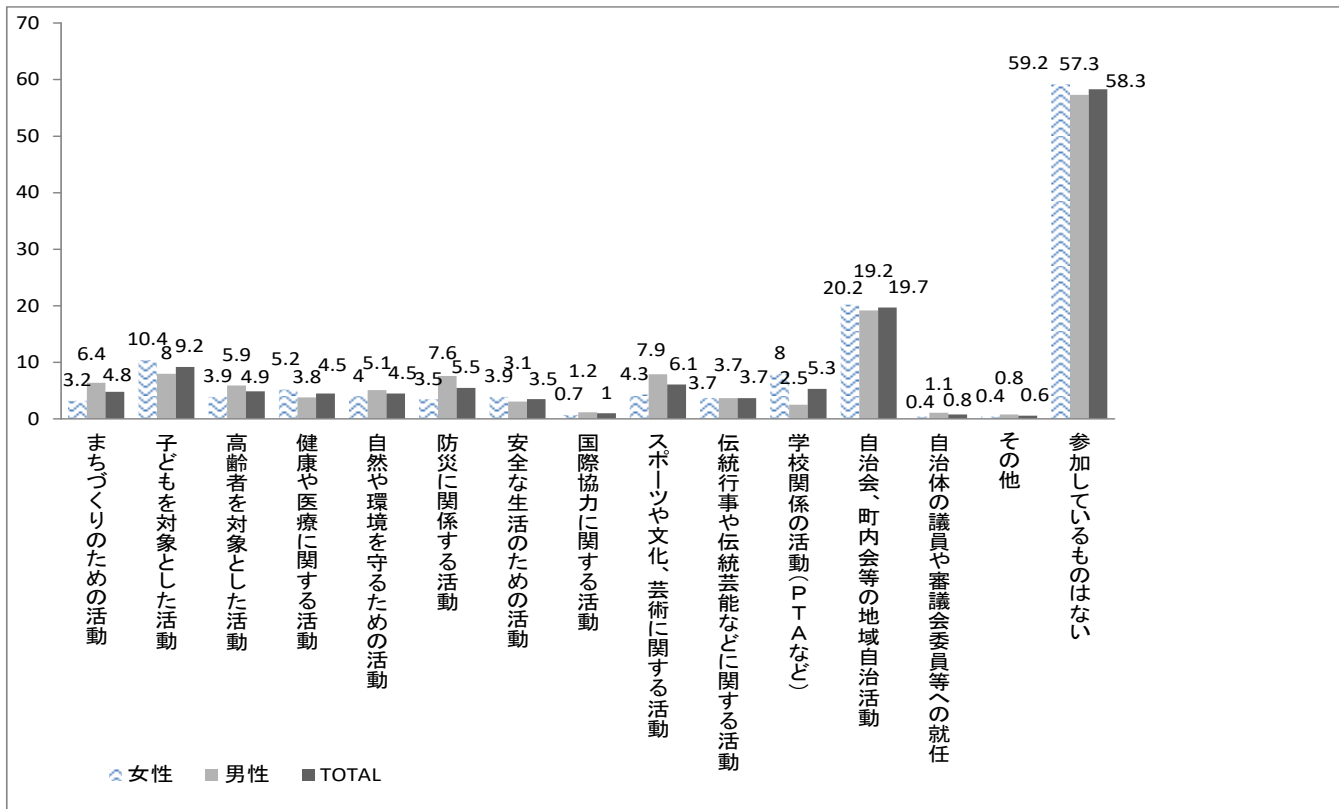
	女性	男性
休暇制度の充実	33.2%	43.3%
男性の仕事中心の生き方、考え方を改める	32.9%	38.0%
男女の役割分担についての社会通念、慣習などを改める	35.9%	25.0%
日々の労働時間の短縮	35.2%	39.5%
男性の家事などへの抵抗感をなくす	32.1%	18.6%
夫婦や家族、周囲の人の理解	23.6%	15.8%
子どもの頃からの家庭や学校での教育	25.7%	14.0%

【Q17 地域活動への参加状況】

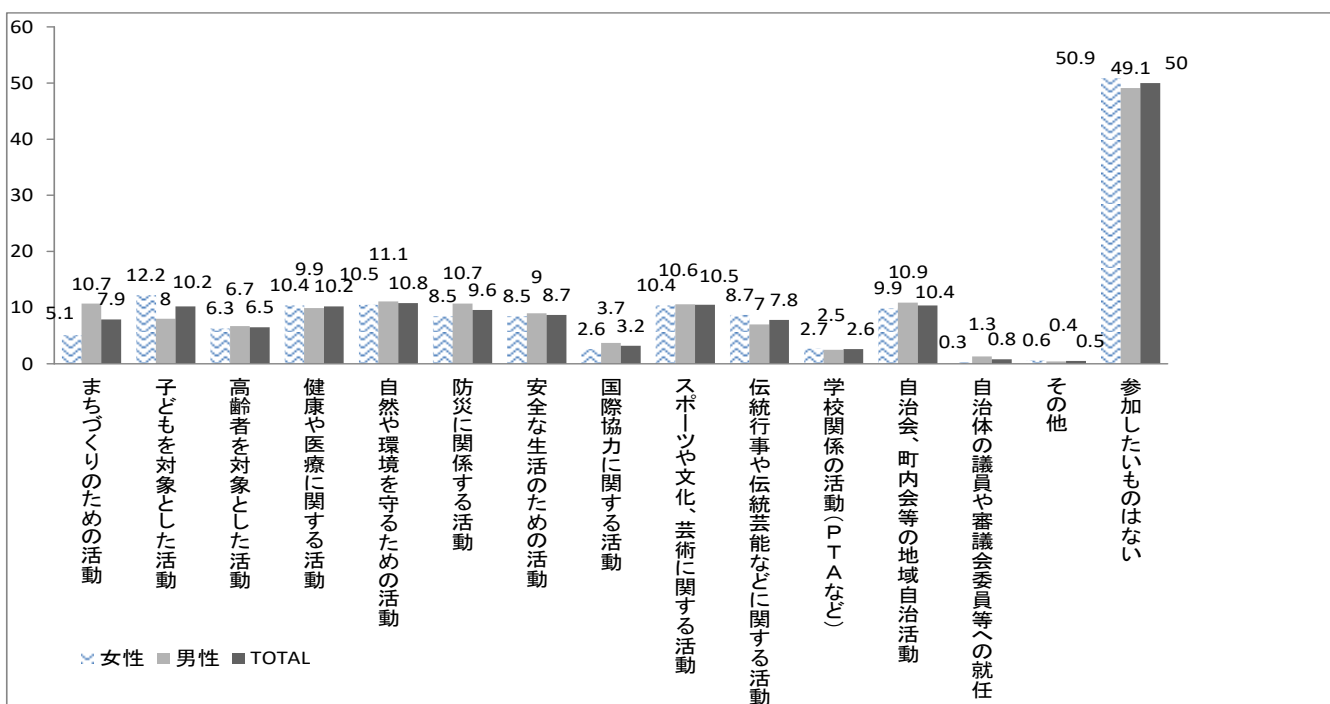
「現在参加しているもの」で多いのは、女性は「自治会・町内会等の地域自治活動」「子どもを対象とした活動」、男性は「自治会・町内会等の地域自治活動」。

男女とも「参加している（したい）ものはない」が5割。

●現在参加しているもの



●今後参加したいもの

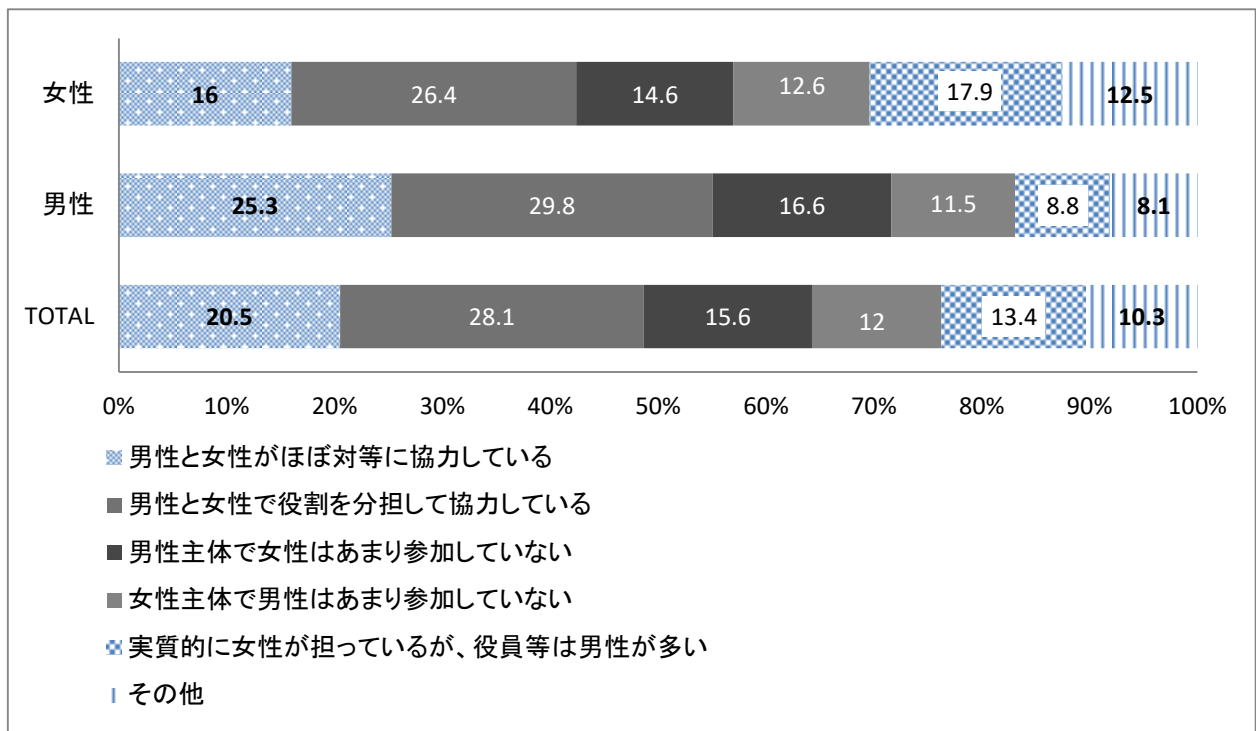


●「現在参加しているもの」「今後参加したいもの」で、男女いずれかが10%以上

	女性		男性	
	参加	参加希望	参加	参加希望
自治会・町内会等の地域自治活動	19.2%	9.9%	20.2%	10.9%
子どもを対象とした活動	10.4%	12.2%	8.0%	8.0%
スポーツや文化、芸術、学術に関する活動	4.3%	10.4%	7.9%	10.6%
自然や環境を守るための活動	4.0%	10.5%	5.1%	11.1%
防災に関する活動	3.5%	8.5%	7.6%	10.7%
健康や医療に関する活動	5.2%	10.4%	3.8%	9.9%
まちづくりのための活動	3.2%	5.1%	6.4%	10.7%
参加している（したい）ものはない	59.2%	50.9%	57.3%	49.1%

【Q18 地域での活動における男女の役割】

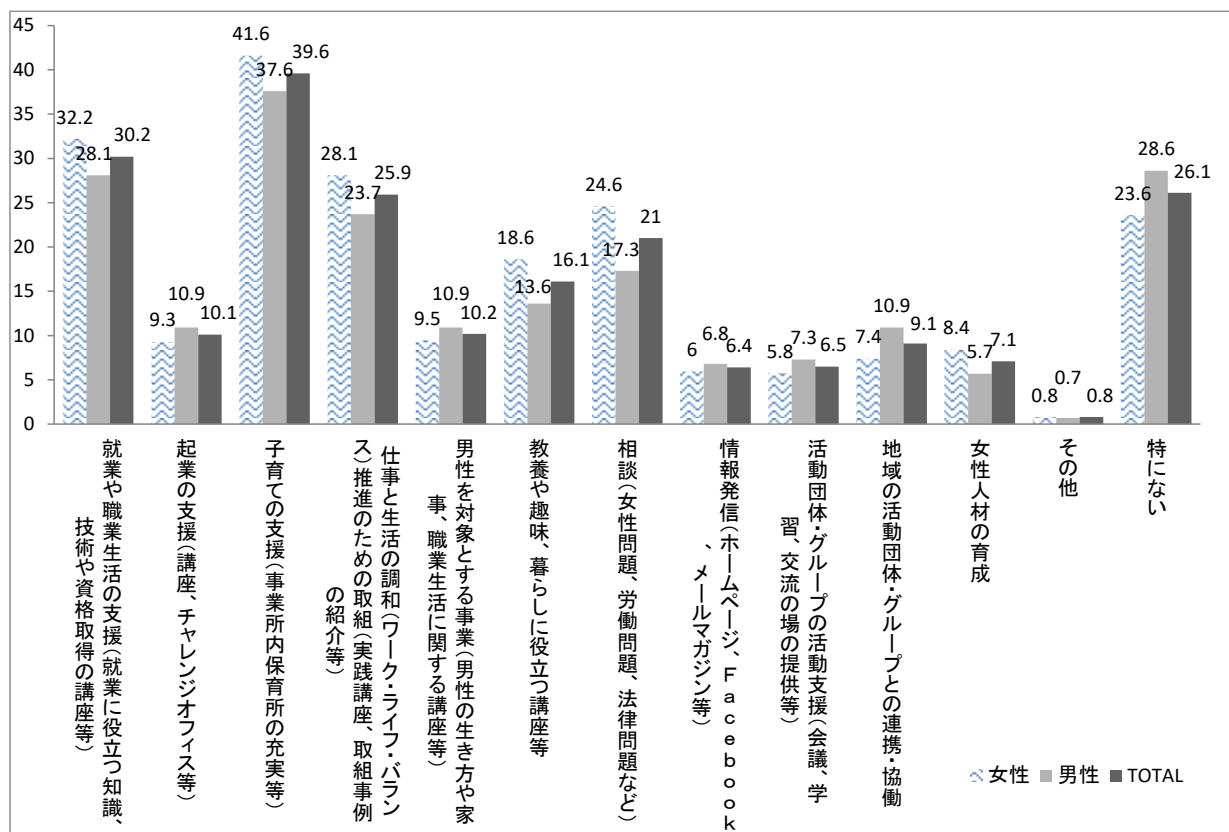
男女ともに、「男女が役割を分担して協力」が一番高い。



	女性	男性
男女が対等に協力	16.0%	25.3%
男女が役割を分担して協力	26.4%	29.8%
男性主体	14.6%	16.6%
女性主体	12.6%	11.5%
女性が担っているが役員は男性	17.9%	8.8%

【Q19 らら京都の事業で重要なもの、拡充してほしいもの】

男女とも、「子育ての支援」「就業や職業生活の支援」「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）推進のための取組」「相談（女性問題、労働問題、法律問題）」の順に多い。



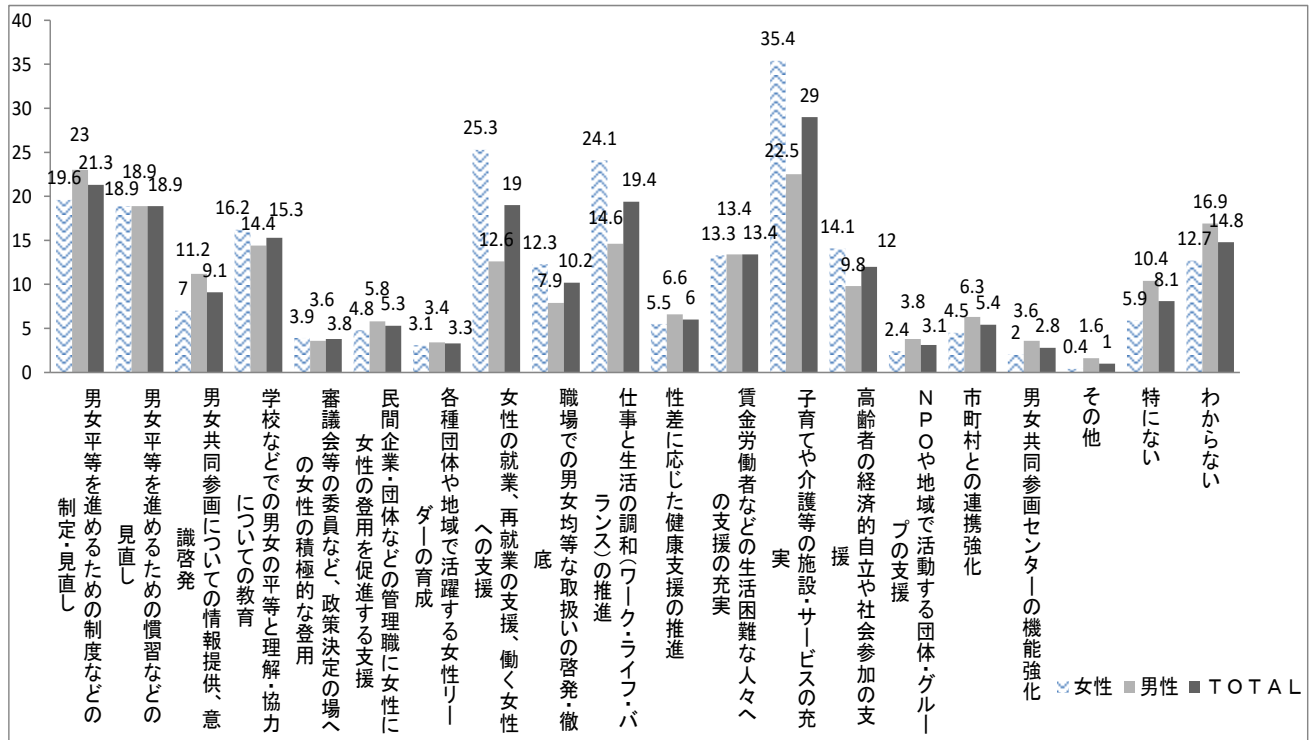
(男女いずれかが20%以上)

	女性	男性
子育ての支援(支援情報の提供、子育て中の親の交流の場の提供、保育ルームの充実等)	41.6%	37.6%
就業や職業生活の支援(就業に役立つ知識、技能や資格取得の講座等)	32.2%	28.1%
仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)推進のための取組	28.1%	23.7%
相談(女性問題、労働問題、法律問題)	24.6%	17.3%

【Q20 京都府が力を入れるべき施策】

女性は、「子育てや介護等の施設・サービスの充実」「女性の就業支援」「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進」の順に多い。

男性は、「男女平等を進めるための制度の制定・見直し」「子育てや介護等の施設・サービスの充実」「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進」の順に多い。



(男女いずれかが20%以上)

	女性	男性
子育てや介護等の施設・サービスの充実	35.4%	22.5%
女性の就業、再就業の支援、働く女性への支援	25.3%	12.6%
仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進	24.1%	14.5%
男女平等を進めるための制度の制定・見直し	19.6%	23.0%

【Q21 自由記述】

男女共同参画及びその関連課題について、さまざまな意見が寄せられた。

特に、多かった意見は、府の広報・アピール不足、男性や企業、高齢者の意識改革への施策、管理職や議員のクォータ制の導入、子育て支援についての要望が多かった。